



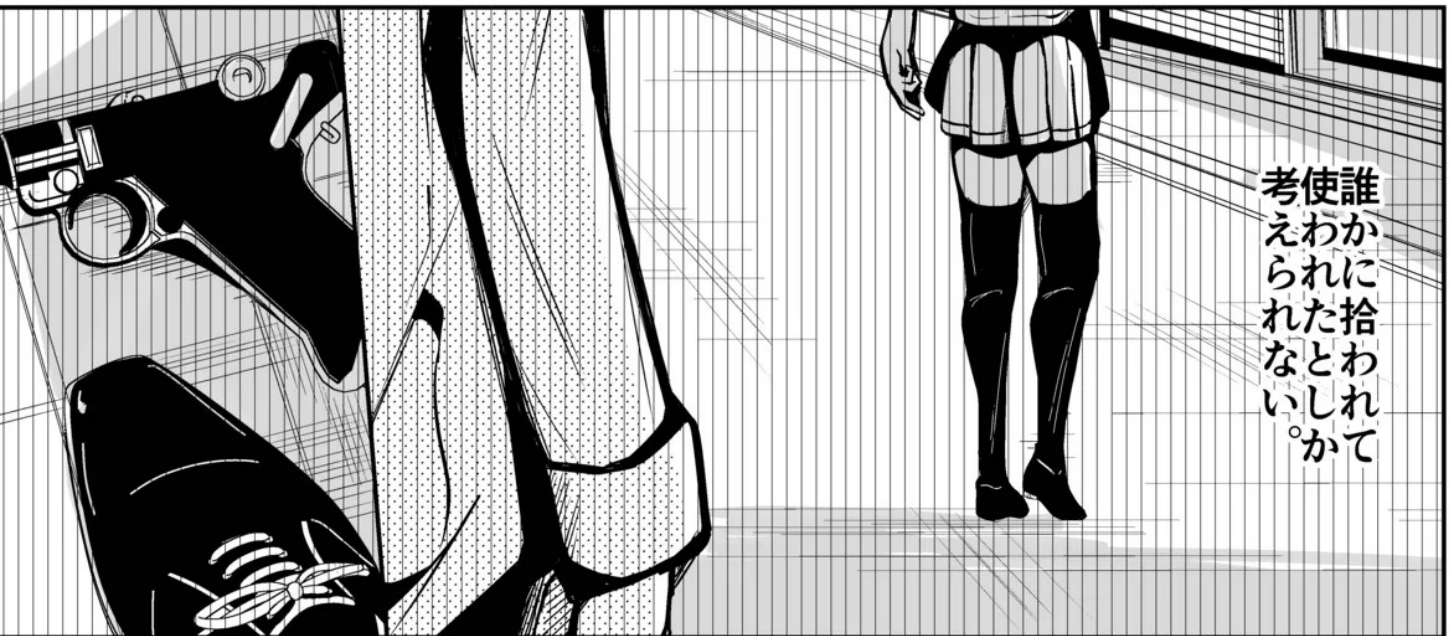
001番の銃。

…あの時
無くしたやつか。

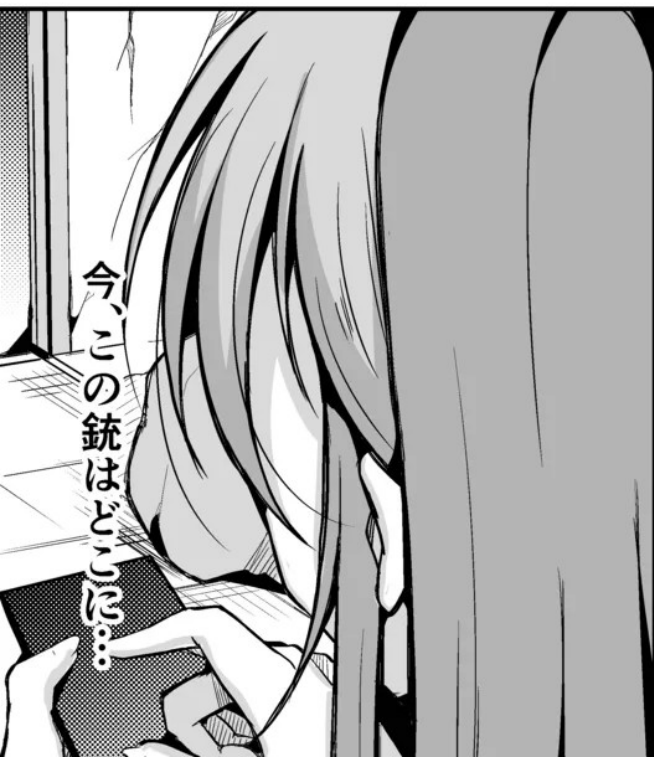
魂を抜き取る銃_001 不正なアクセスを確認

！詳細！
あなたの位置情報と異なる場所で
銃の使用が確認されました。
心当たりがない場合、不正に使用された
恐れがあります。

アクセス履歴を見る



誰かに拾われて
使えなくなったのか
考えられないか



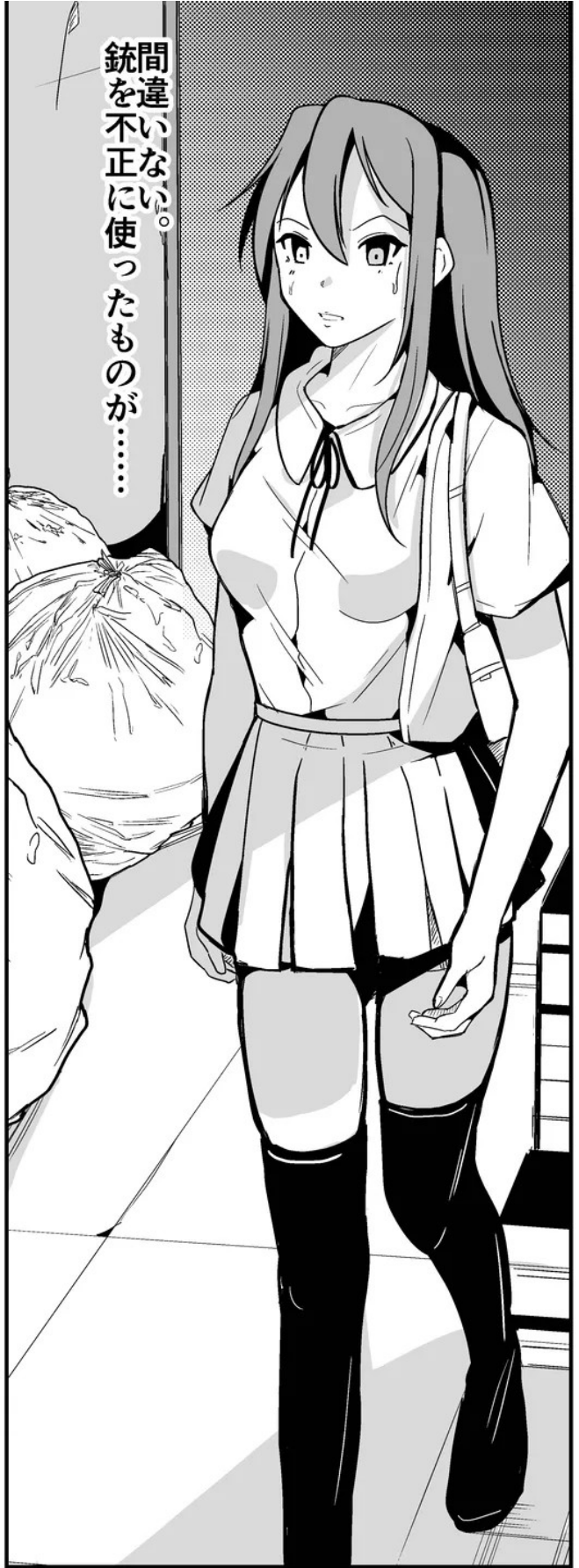
今、この銃はどこに…



しかし、
俺以外が使えるはずが…。



目的はなんだ？



間違いない。
銃を不正に使ったものが……



俺を捕まえに来たのか、



なっ？

それとも……

あ、あああのっ…

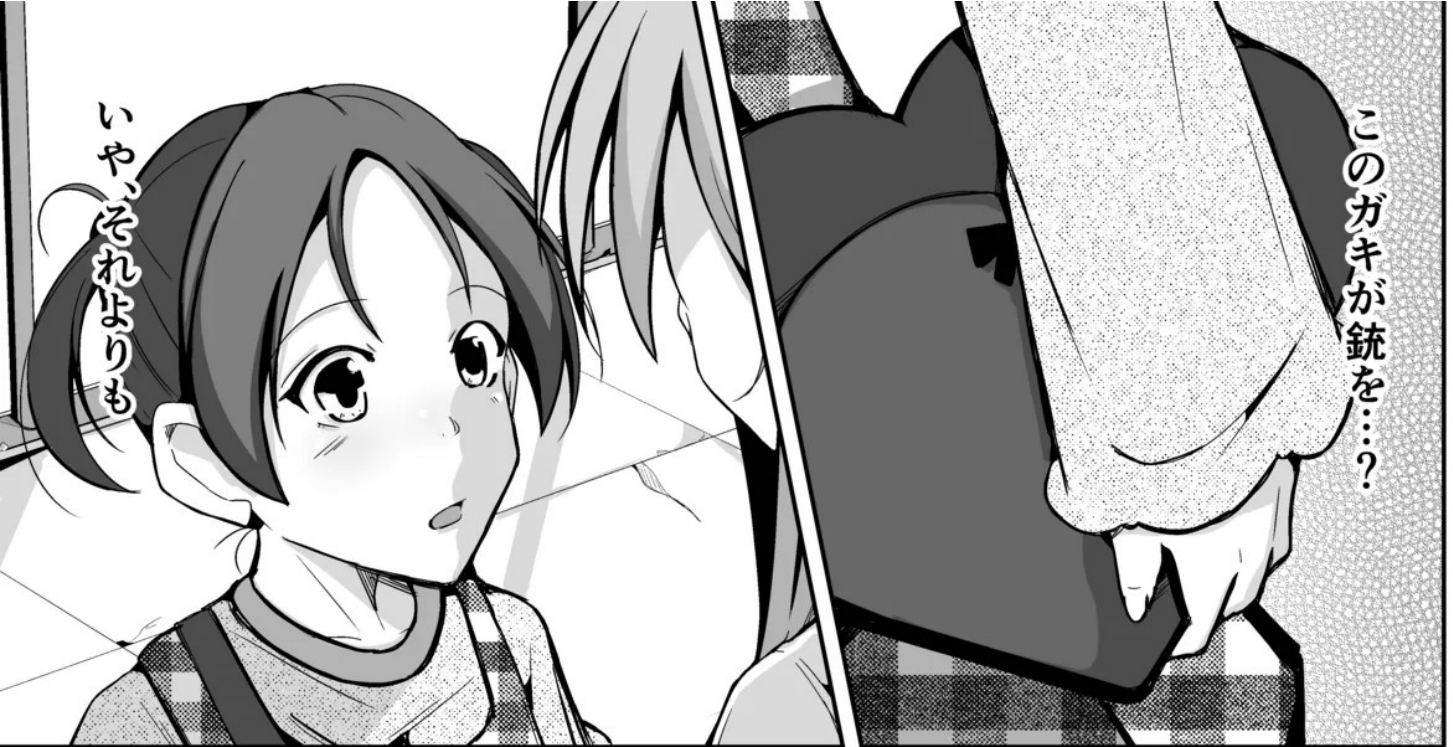
おじさんが、

ガキだと

?

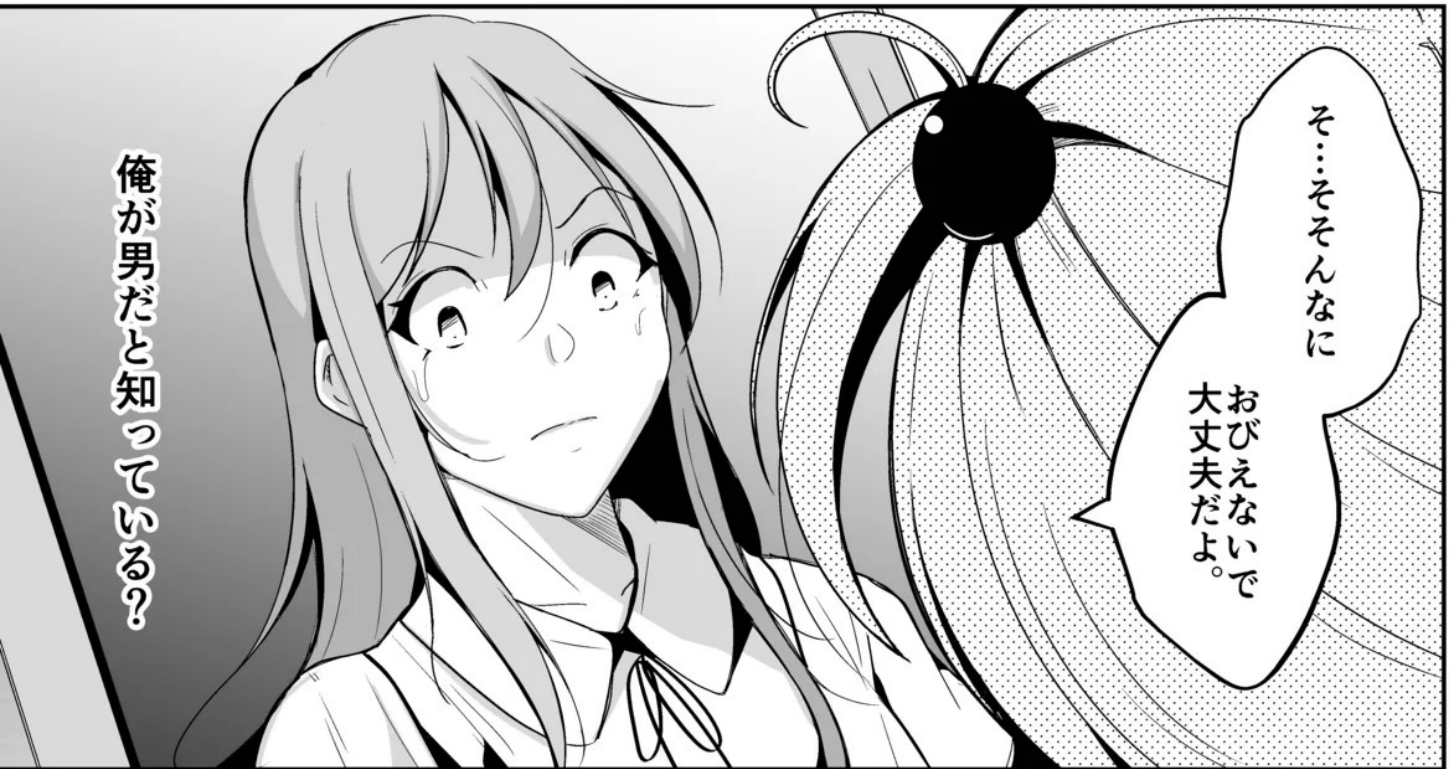
この銃の持ち主…
ですか？





いや、それよりも

このガキが銃を…？



俺が男だと知っている？

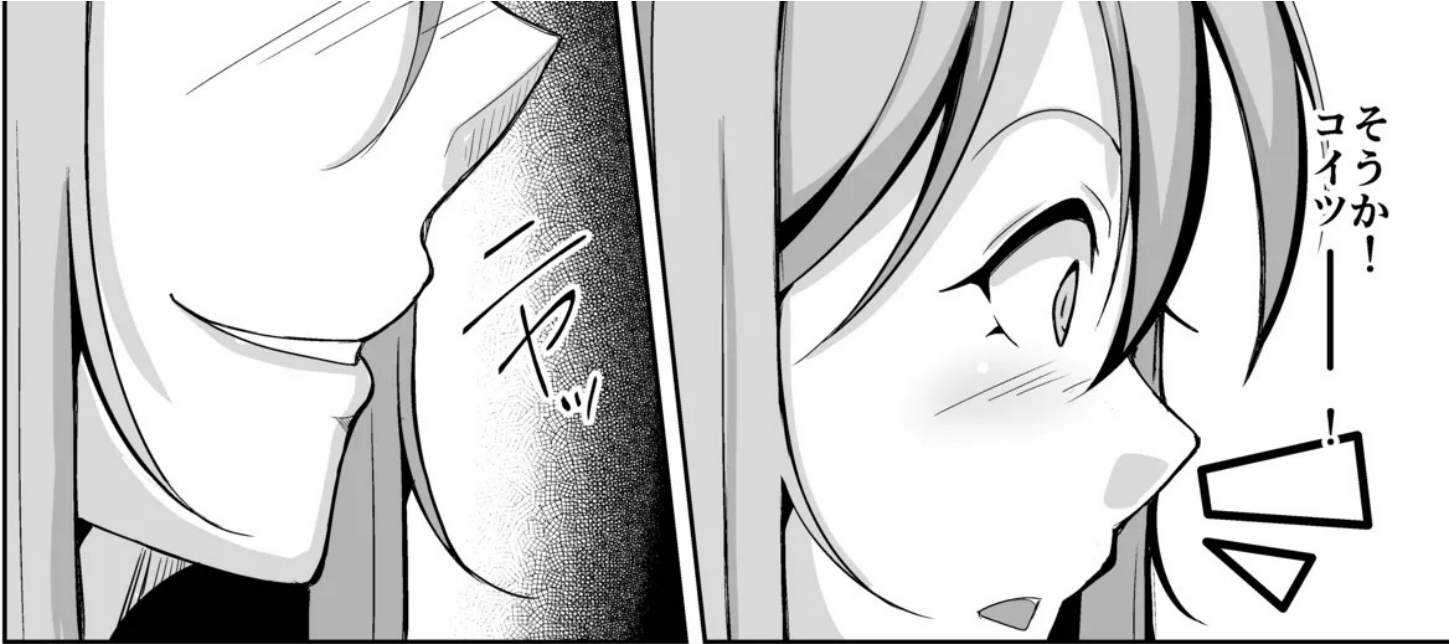
そ…そそんなに

おびえないで
大丈夫だよ。

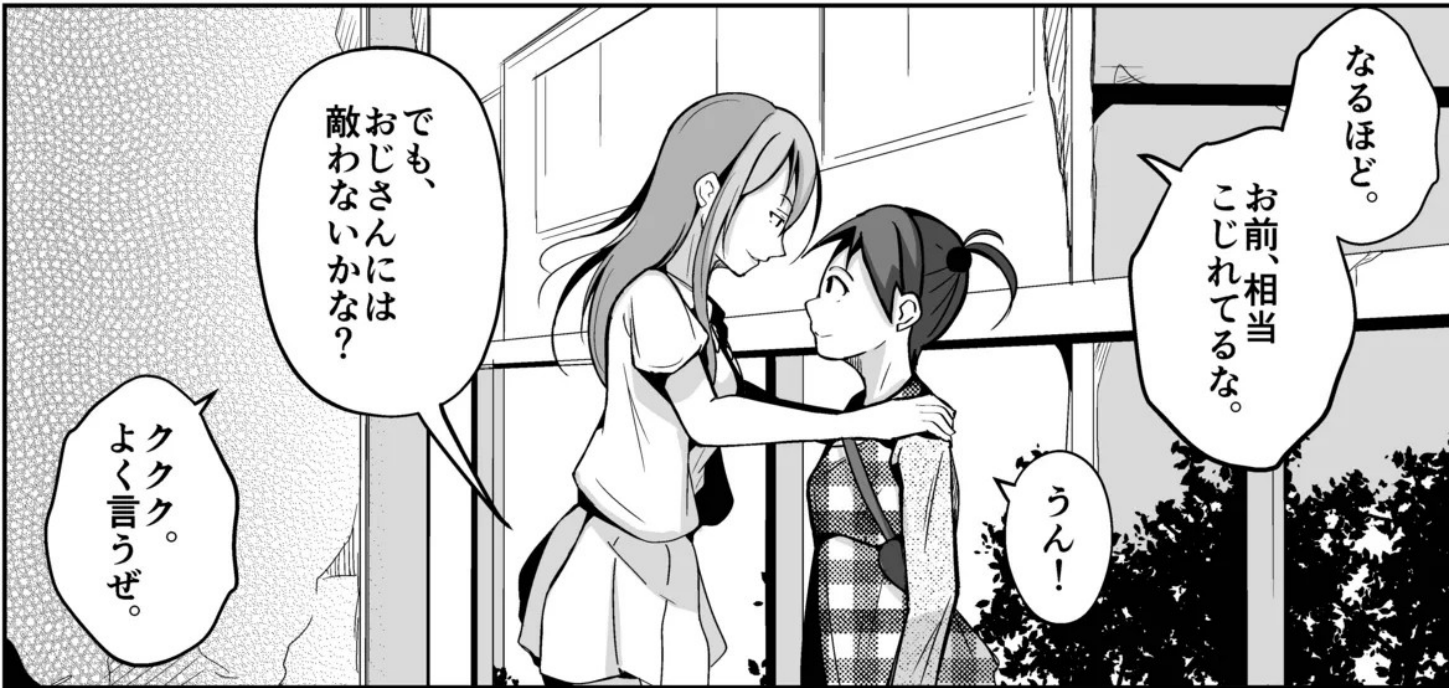


同類だから。

僕は
おじさんの味方、



そうか!
コイツー



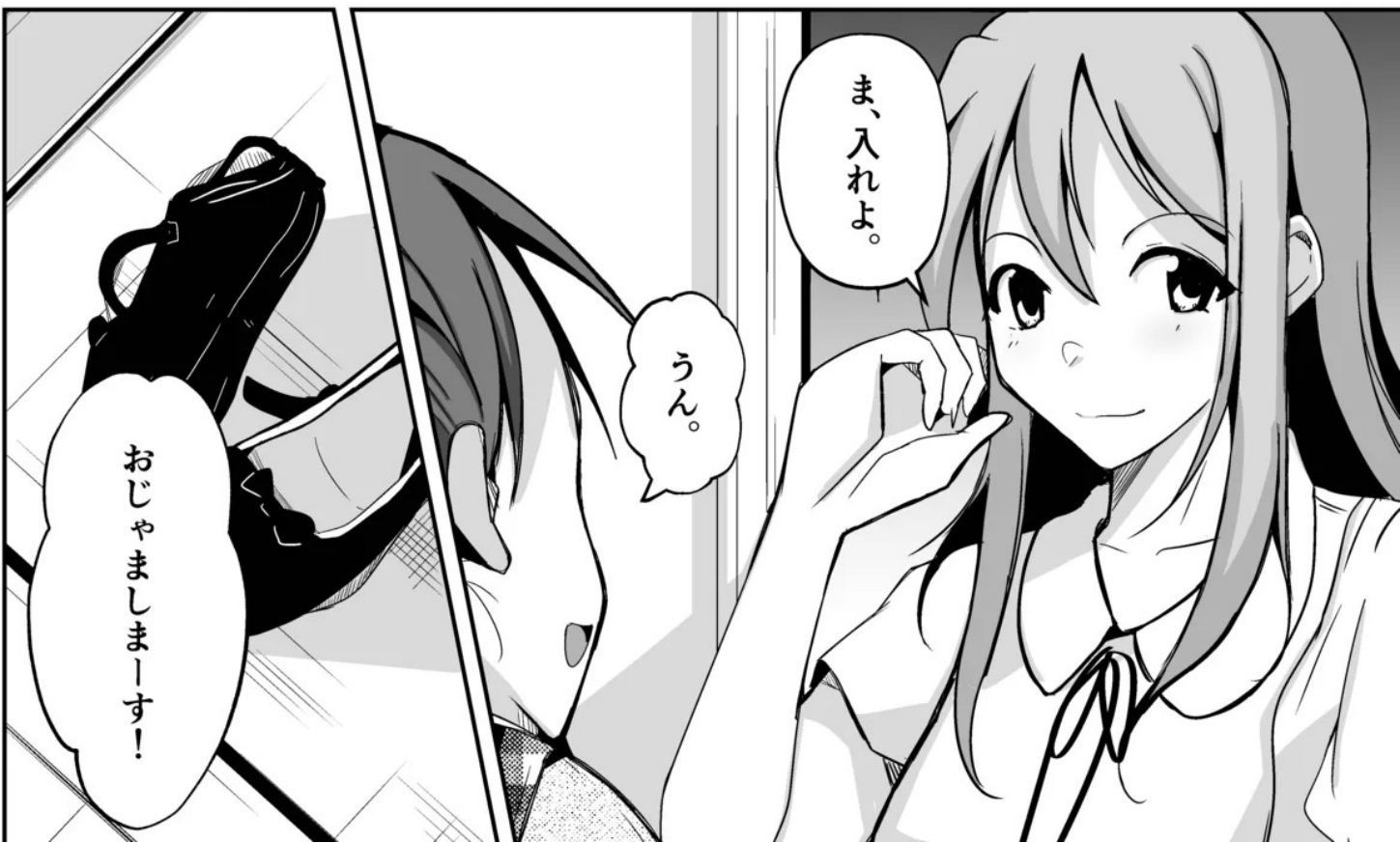
でも、
おじさんには
敵わないかな?

なるほど。

お前、相当
こじれてるな。

うん!

ククク。
よく言うぜ。



ま、入れよ。

うん。

おじやましませーす!





太った中年のおじさんだった。



そして、二人の女性の反応が明らかにおかしい事から

僕は確信したんだ。



この銃は魂を抜き取るんだって。



僕は偶然見てしまったんだ。

あなたが銃を使って

身体を乗り換えていくのを。

あり得ないとは思ったけど、

あの時、女性の身体から出ていた

魂のようなものは



そうだ。

お前の思っている通り
その銃は
魂を入れ替える。

いや…



正しくは
魂を抜き取るシステムが
作動するための
データへ
アクセスするキーだ。

データそのものは
クラウド上に
保管されている。

しかし、
本来俺以外
は使用できない
はずだが…



僕も
そう思ってた。

だから
ビックリしたんだ。

解錠の音が
した時は。

…やはり
誤動作したのか。



似た顔の人間なら
顔証が
誤動作するように

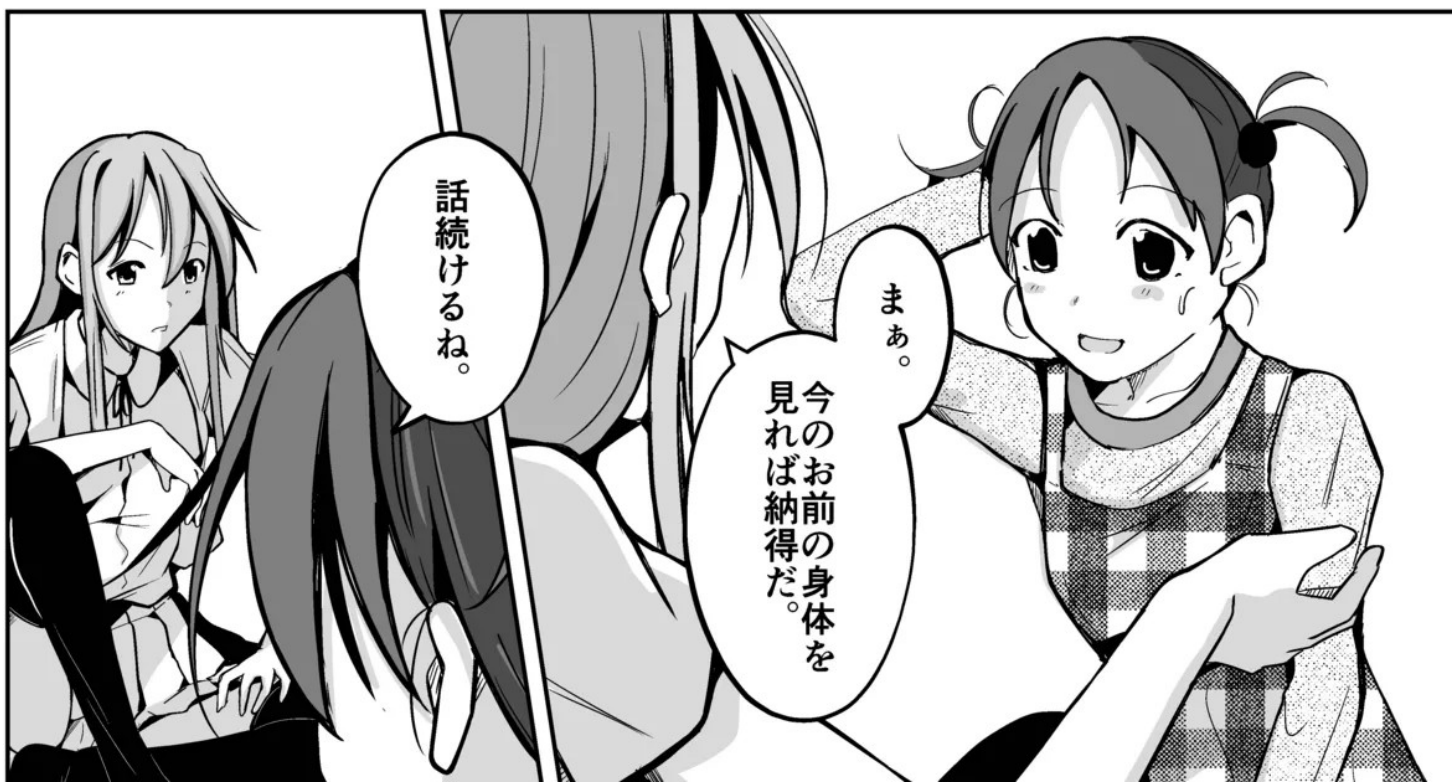
似た魂を持つ人間なら
誤動作する
可能性がある。



お前も
俺と同じく

相当拗らせた
人間だった
ってわけだ。

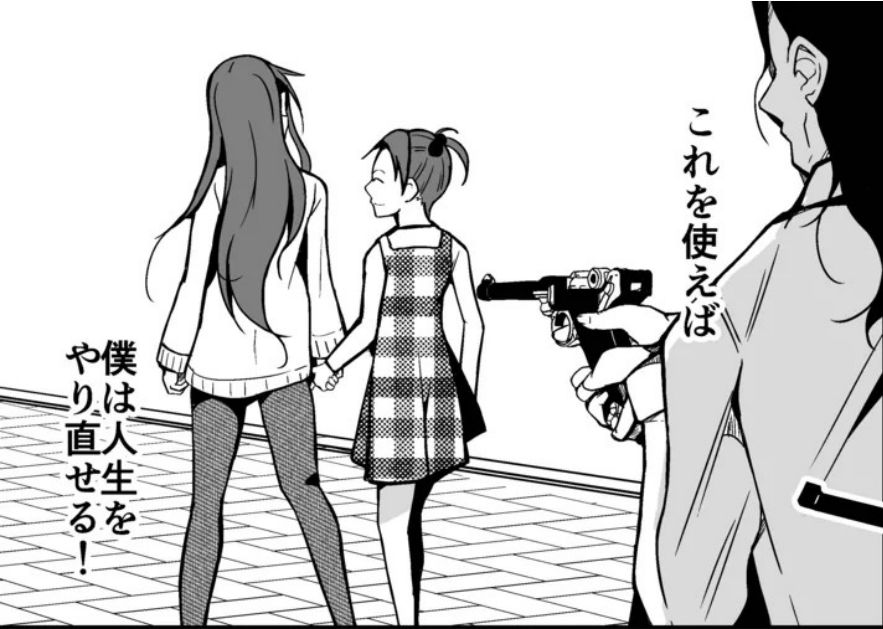
あはは。



話続けるね。

まあ。

今のお前の身体を
見れば納得だ。



これを使えば

僕は人生を
やり直せる！

僕は早速
使ってみる事に
したんだ。



幸せそうな
笑顔の
あの子になれば...



こんな僕でも！



今度こそ
青春を
謳歌できるんだ！

うっ…

どうしたの？

何が信じられないの？
奈々ちゃん。

凄い…
信じられない…

僕、本当に…

…奈々？
…僕の事か。

ううん。
何でもないよ。

ママと今こうして
手をつないで
いられるのが

幸せで
信じられないって。

そう
思っただけ！







ママ、
お待たせ！

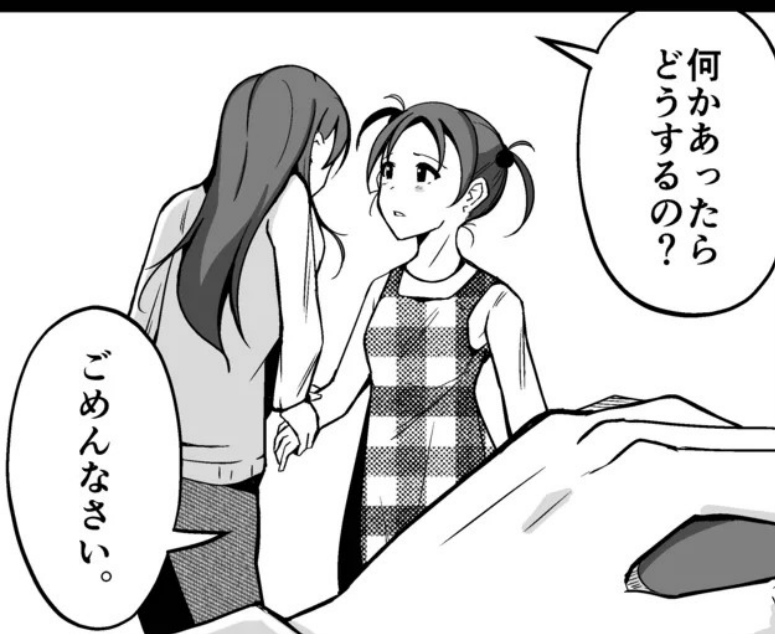
もう！
ダメじゃない！
奈々！

勝手に
飛び出して。



うわーん！

ママーっ！



何かあったら
どうするの？

ごめんなさい。



これは危ないから
僕が預かっておくれ。

じゃあね。
奈々ちゃん。



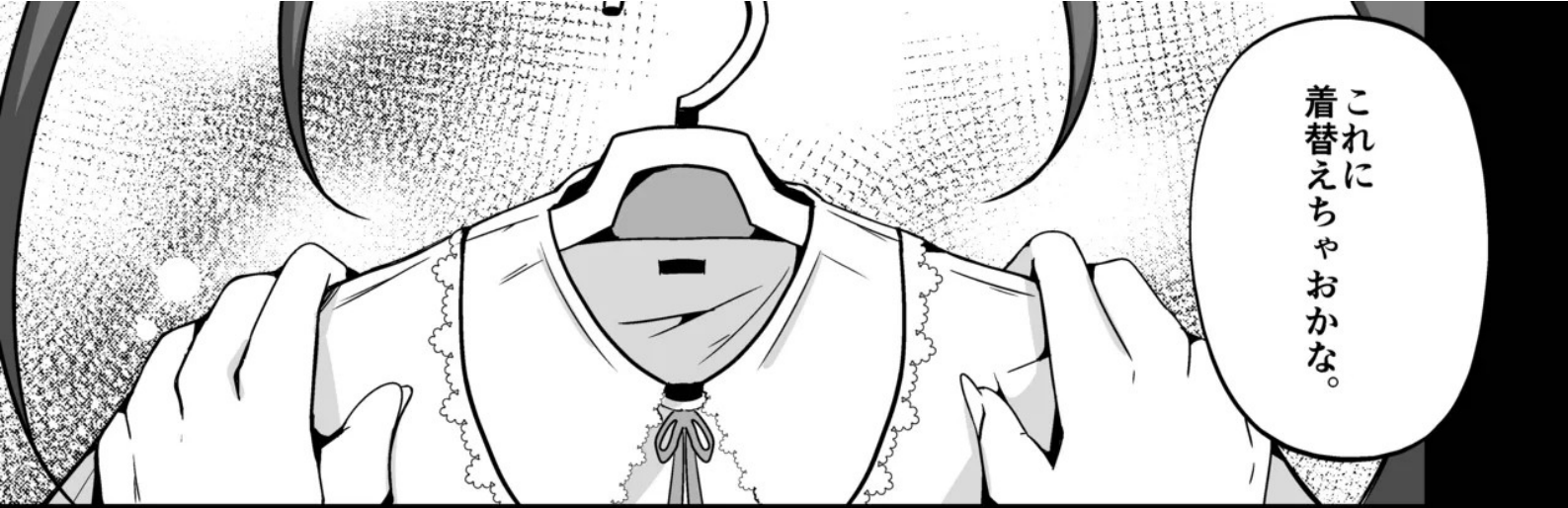
うん…。

他人から見ればの
当たり前家族の
しり取りかども
れりないけど

次から
気を付けるのよ。

僕は人生で初めて
本心に底から
幸せだと
実感したんだ。





これに
着替えちゃおかな。



これが
奈々ちゃん。

へへっ。

…今の僕。



カワイイし

お肌も
スベスベだ。



うわあ…。

か、カワイイ。



キラキラ

スカートひらひら
させるの

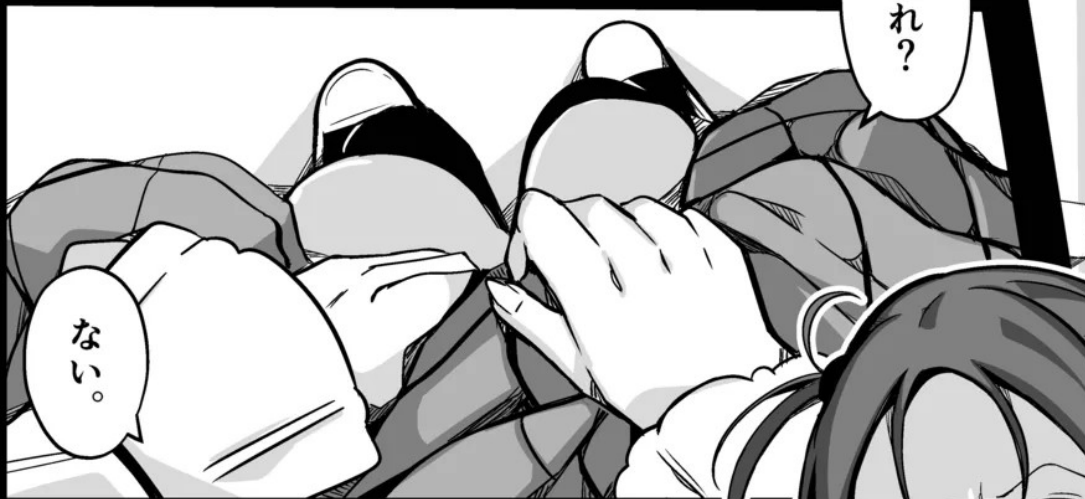
一度やって
みたかったんだよね。

っ！

キラキラ

キラキラ

この感じ...



ない。

…あれ？



なんだか、
意識したら
急にドキドキ
しちゃった。

ドキ
ドキ



…はっ！

そうか！

今、僕は
女の子だった。

おちんちんなんて
あるわけないんだ…。



…それにしても
女の子って

どうやって
おしっこするの？



はあー。

…んっ。

なんだろう。

おちんちんが
無いからか

あああ…

おしっこが出るまでの
時間が短くて
それがつもなく
新鮮に感じる。

ただおしっこを
してるだけなのに
その行為一つで

僕が今、
女の子だ
という事を
嫌でも自覚
してしまっ
たんだ！

それが
たまらなく

嬉しっ！

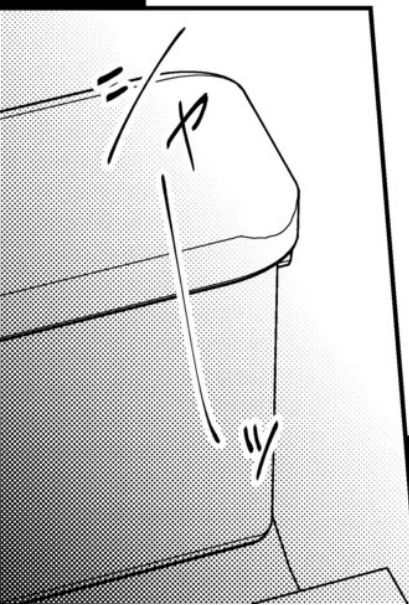


なんが変な感じ。
つい声出しちゃった!!



女の子って
ホント不思議がいっぱいだなあ。

男とこんなにも
違うなんて!!



どうしたの
奈々ちゃん？

急にママとお風呂に
入りたいなんて。

あれほど一人で
入るって
言ってたのにね。

うん！

やっぱりママと
入りたいなあーって
思ってた。

だって、奈々、
ママの事

大好きだもん！

ひゃっ！

ハロッ



幸せな時間を
過ごしたんだ。

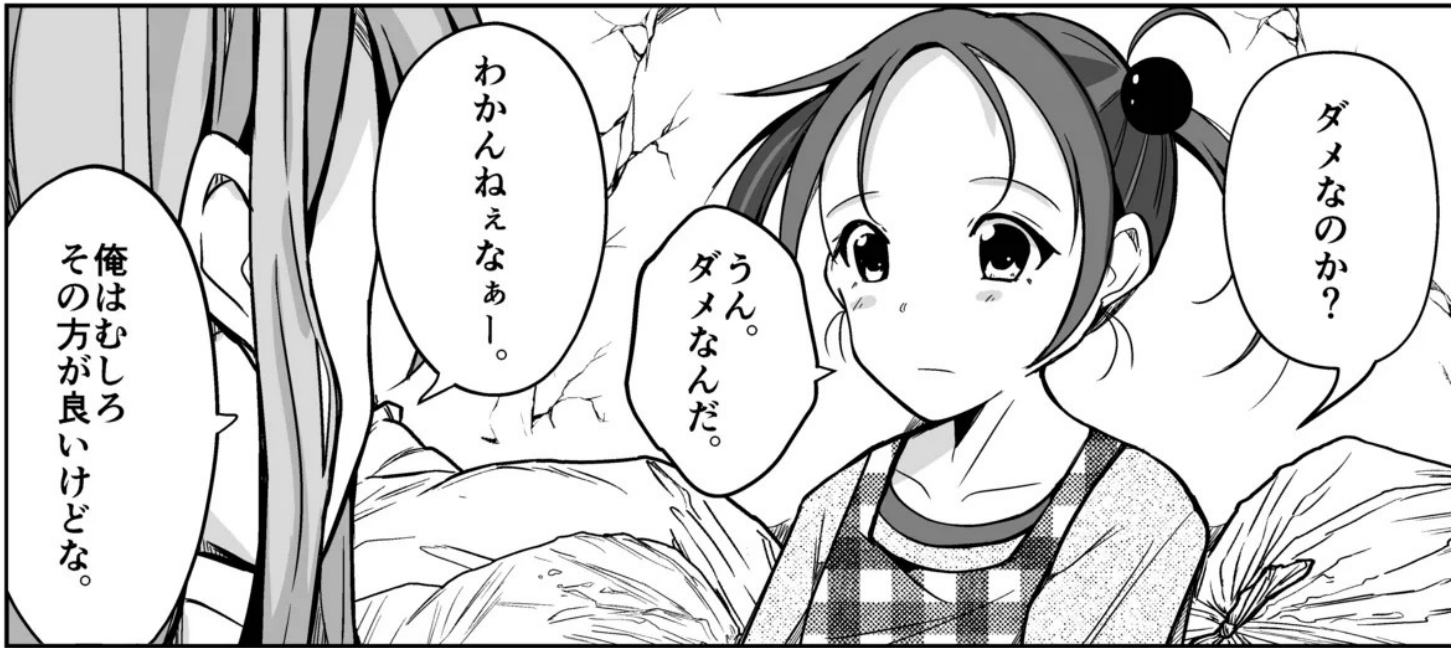
こうして僕は

はい。
できたわよ。

でも…

気付いちゃったんだ。

ありがとう！
ママ！



僕は君を
探す事にしたんだ。

管理者モードから
君の位置情報を
掴む事は簡単だったよ。

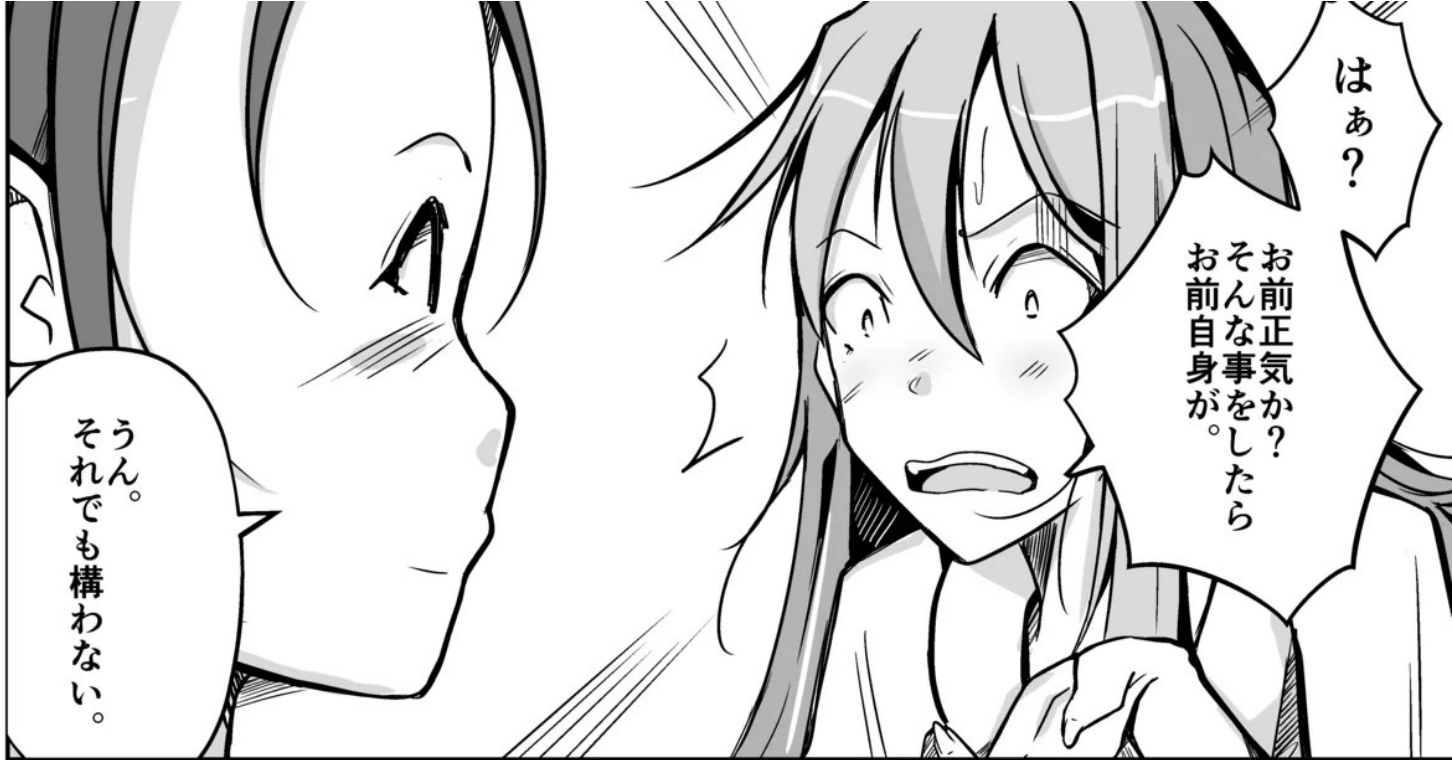
これほどのシステムを
構築できる人なんだ。

真に
やりたい事？

僕が真に
やりたい事も

実現できるんじゃないかってね。

うん。
それはね…。



はあ？

お前正気か？
そんな事をしたら
お前自身が。

うん。
それでも構わない。



俺とは違う方向で
相当拗らせてるな。

お前。



いや、それが
僕の望んだ事なんだ。

まあ。お前が望むなら
それでいいけどさ。

俺には到底
理解できねえ。



で、お願いが
あるんだ。

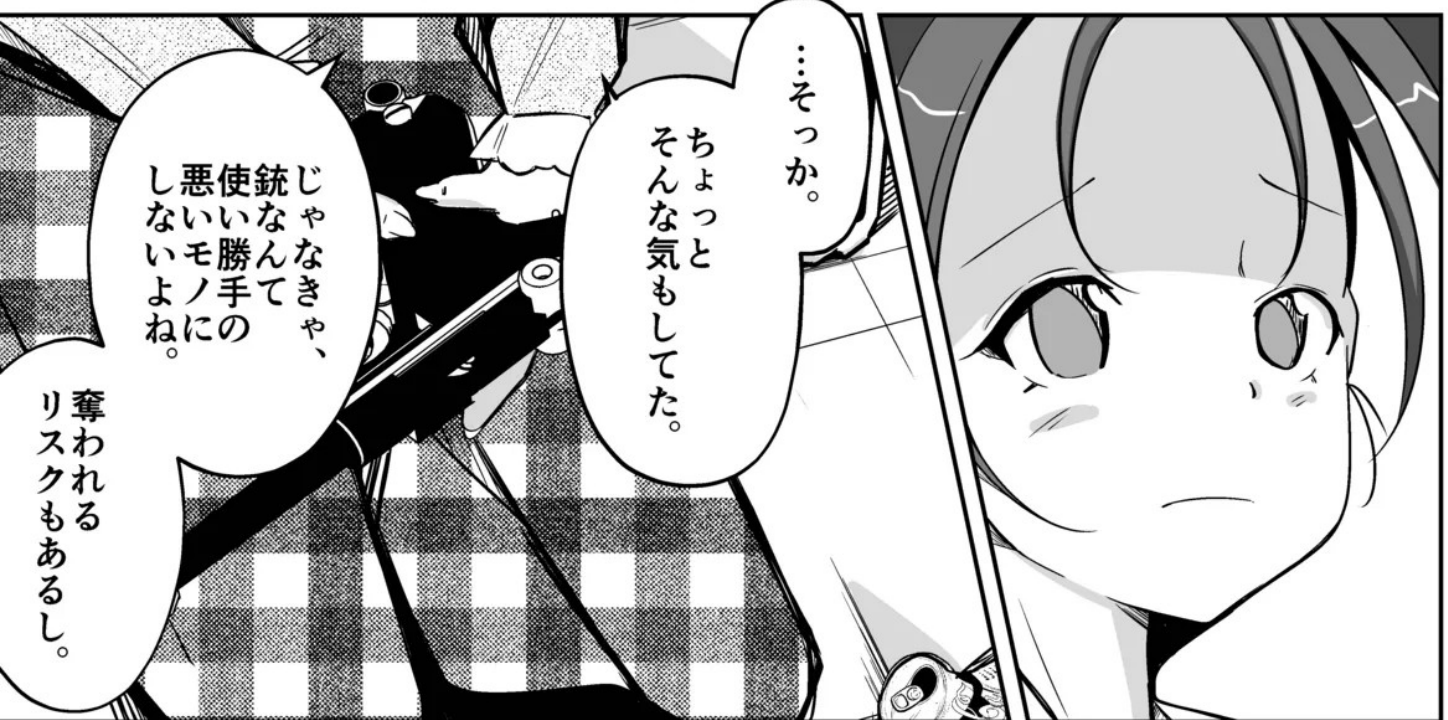


その願いを
叶えるための
システムを
構築しろって事だろ？

…無理だぜ。

これは、ある人物から
システム自体を
パッケージで
購入しただけで

俺には多少の
カスタマイズしか
出来ない。

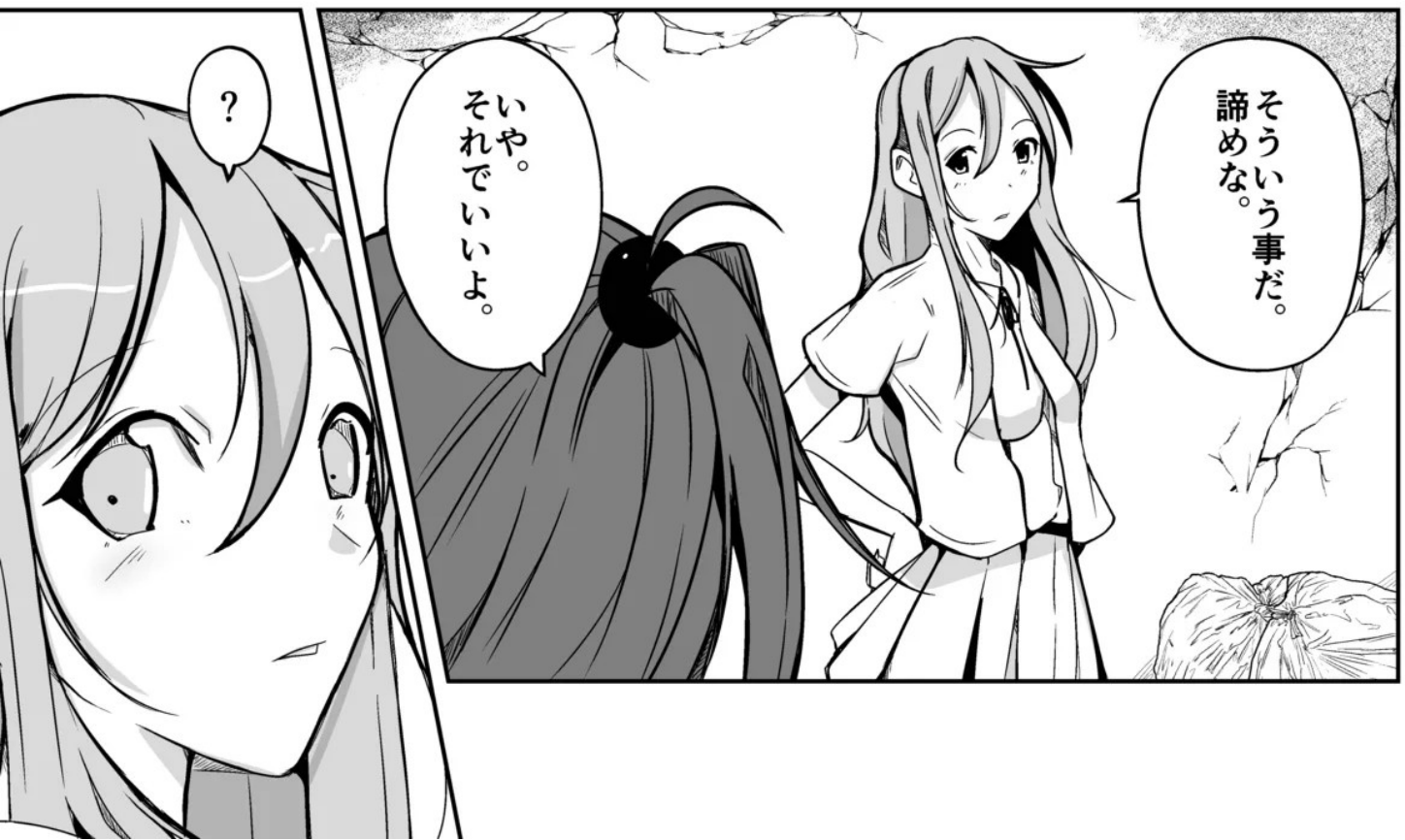


…そっか。

ちよつと
そんな気もしてた。

じゃなきゃ、
銃なんて
使いたく
ないよ
ね。

奪われる
リスクもあるし。



そういう事だ。
諦めな。

そいや。
それでいいよ。

？

開発は
僕がやるから

システムデータを
見せてくれないかな？

元データさえあれば
僕でも
ある程度
いじれると思うんだ。

だから、

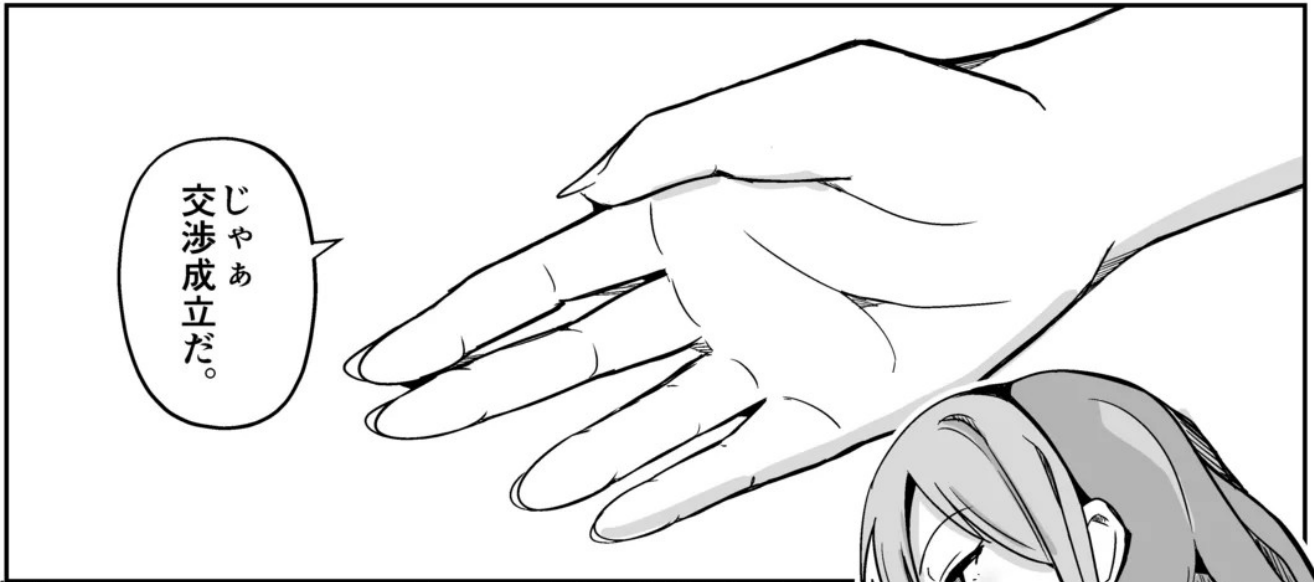
その代わり
君は僕の
夢の実現のための

手助けを
して欲しいんだ。

この
魂を抜き取る銃を

今以上に
利便性の高いものに
仕立てる。

それでは
ダメかな？



どうだ？
進み具合は。

あの…胸、
当たってるん
だけども…

クク。
当たってるんだよ。

集中
できないんだけど。

フヒヒ。

ところで、お前は
こういうの
興味ないのか？

その身体じゃ、
楽しめないだろ？
色々。

興味あるよ。

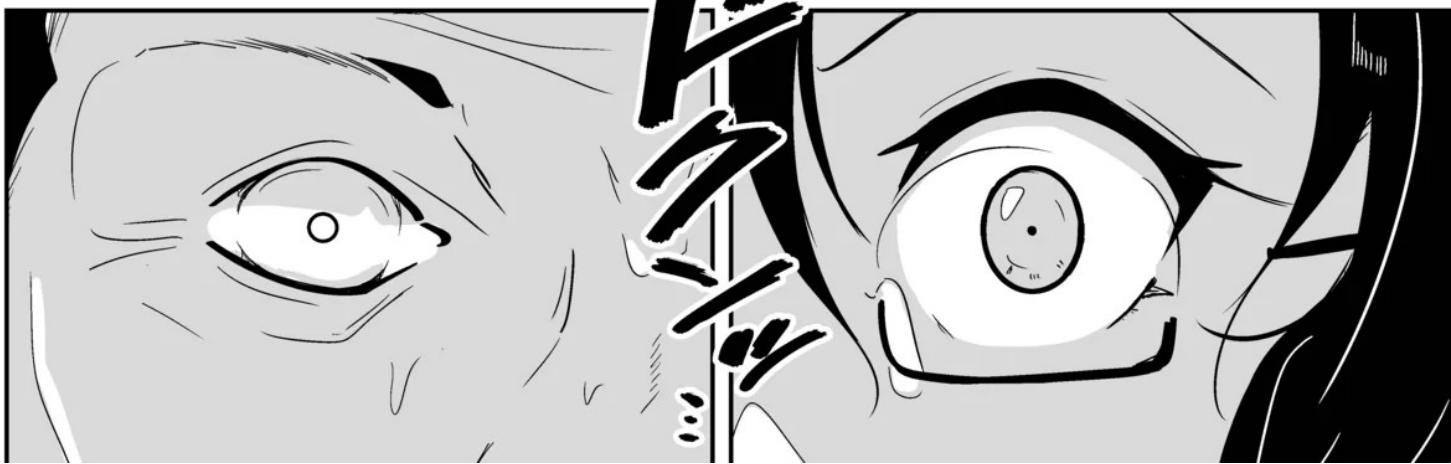
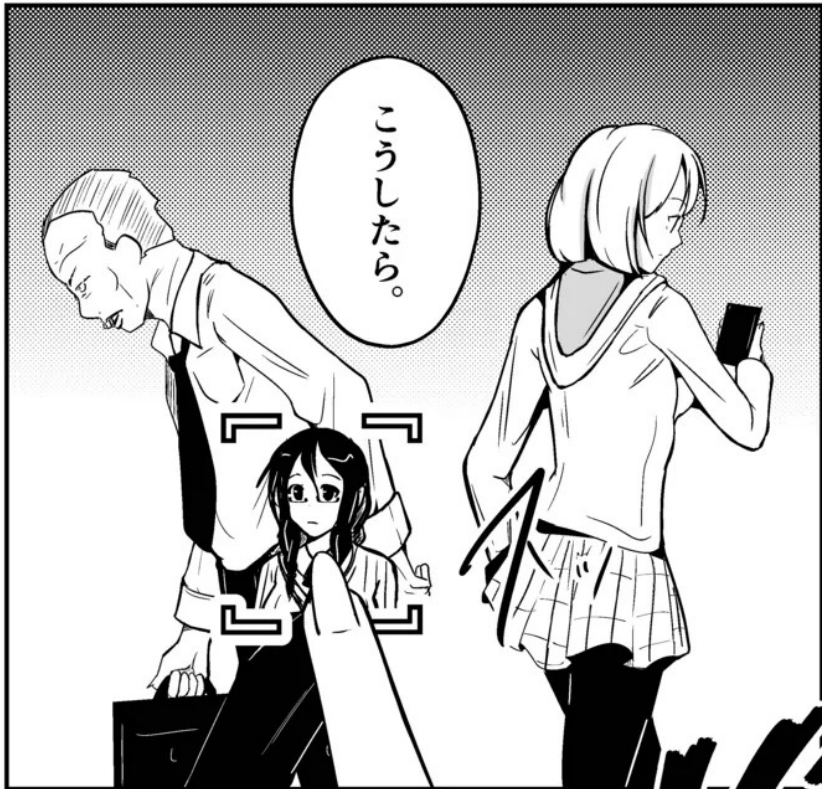
そりゃ、
女性の快感ってのも
知ってみたいさ。

でも、今のままじゃ
リスクが大きすぎるよ。

僕は君みたいに、
この不完全な銃を

何度も
利用しようとは
思わないから。









さて次は

元に戻せるかな？



なんだ。もう戻したのか。

あのままの方が面白いのに。

お、上手くいったね。



動作確認
したかった
だけだしね。

そりや
勿体ないぜ。

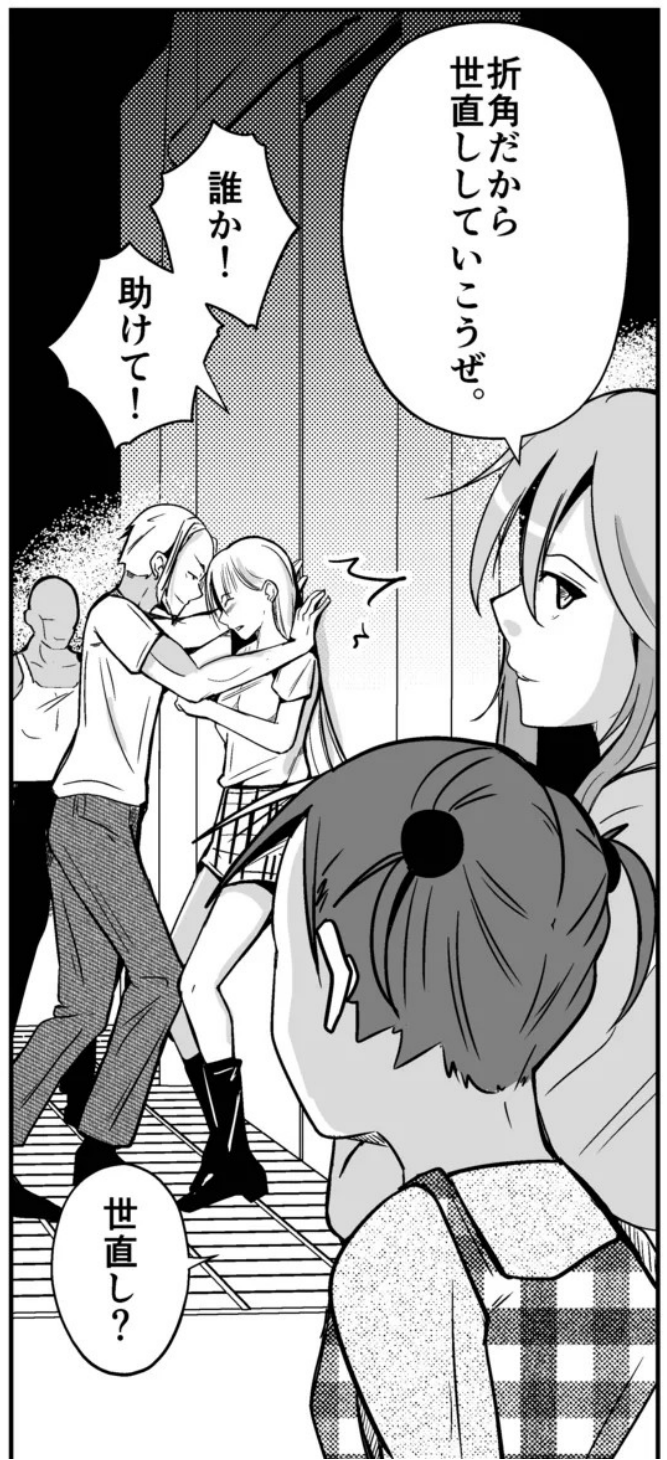
俺はなににも
やってない！
コイツが勝手に
脱ぎだしたんだ！



ああ。

助けを求めてんだ。
助けてあげなきゃな。
それに…

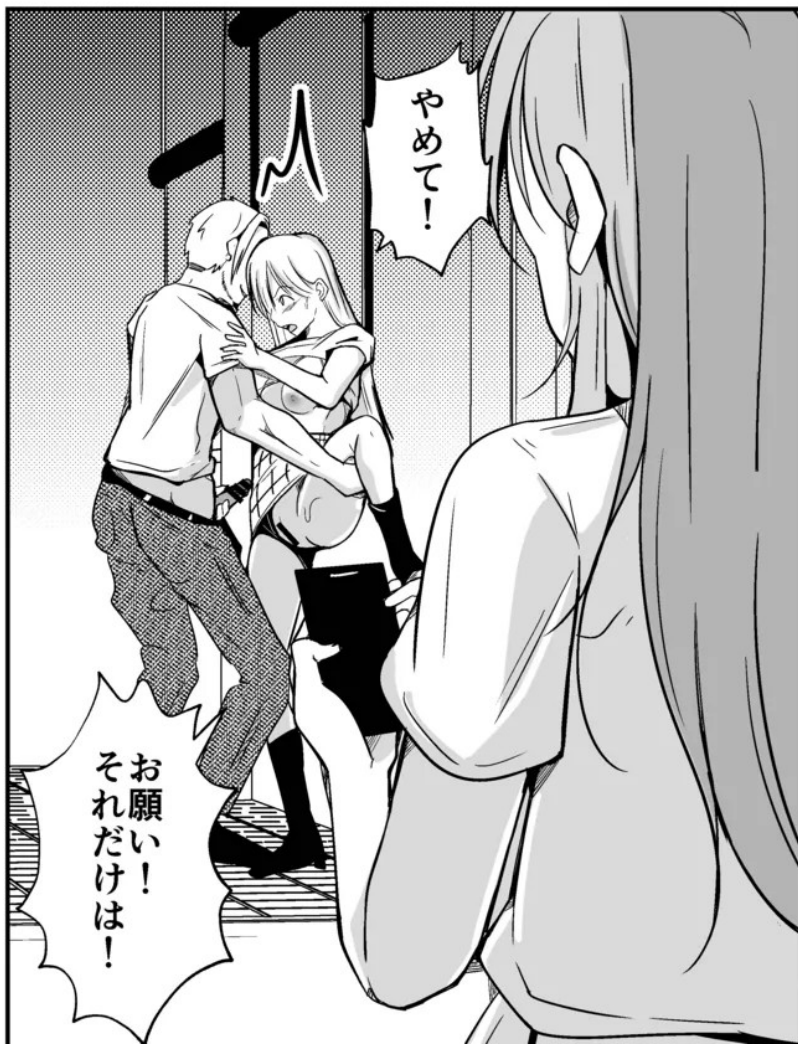
ああいう輩には
わからせて
やらないと
いけない。

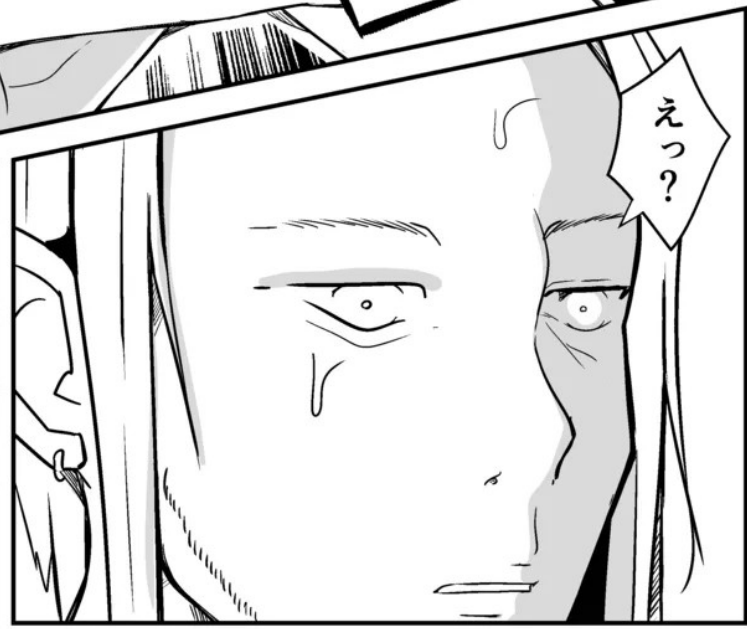


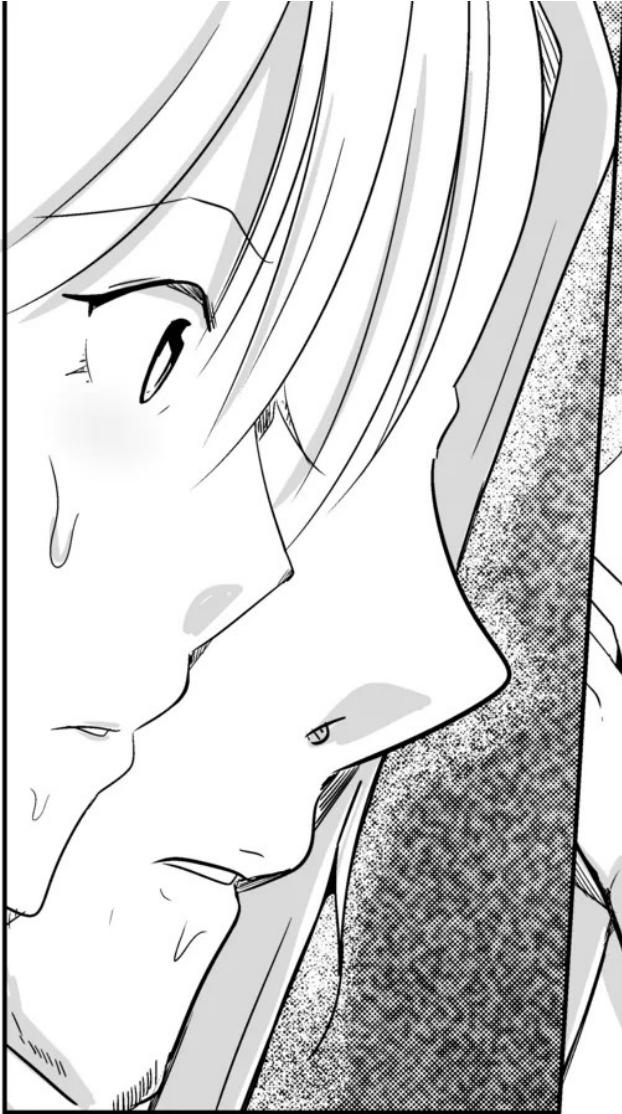
折角だから
世直ししていいこうぜ。

誰か！
助けて！

世直し？



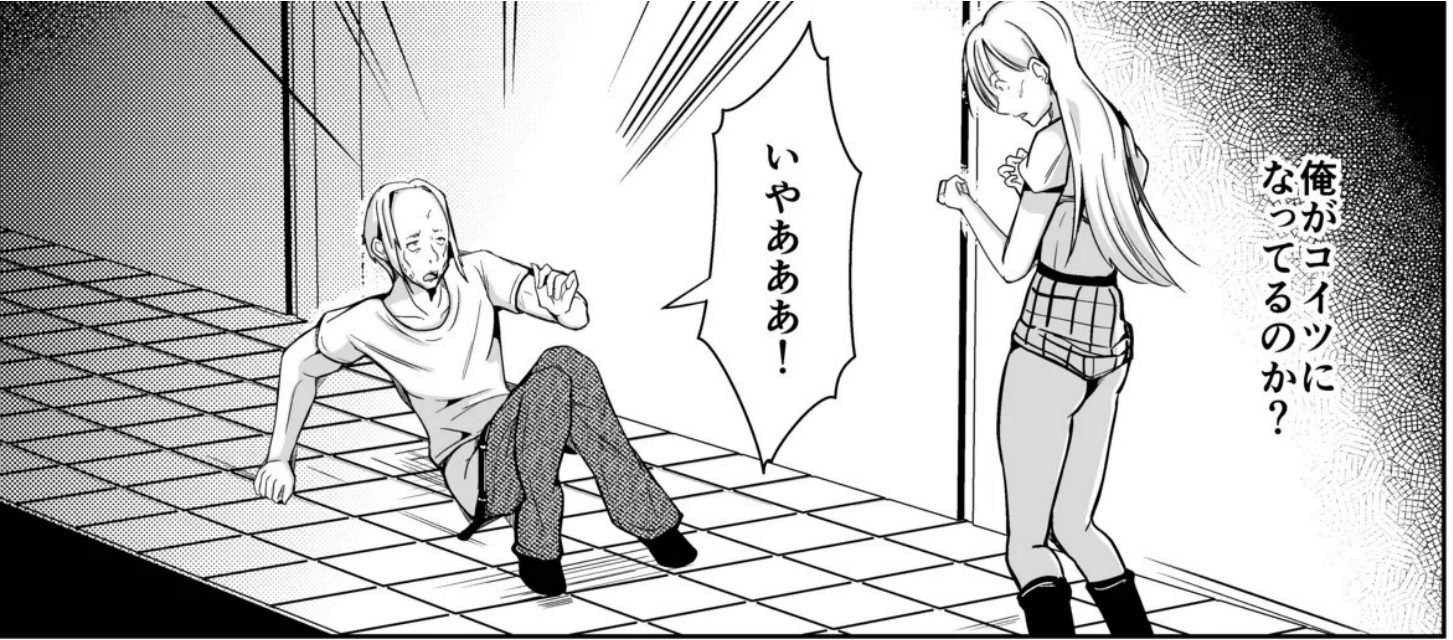




俺
わたし
が

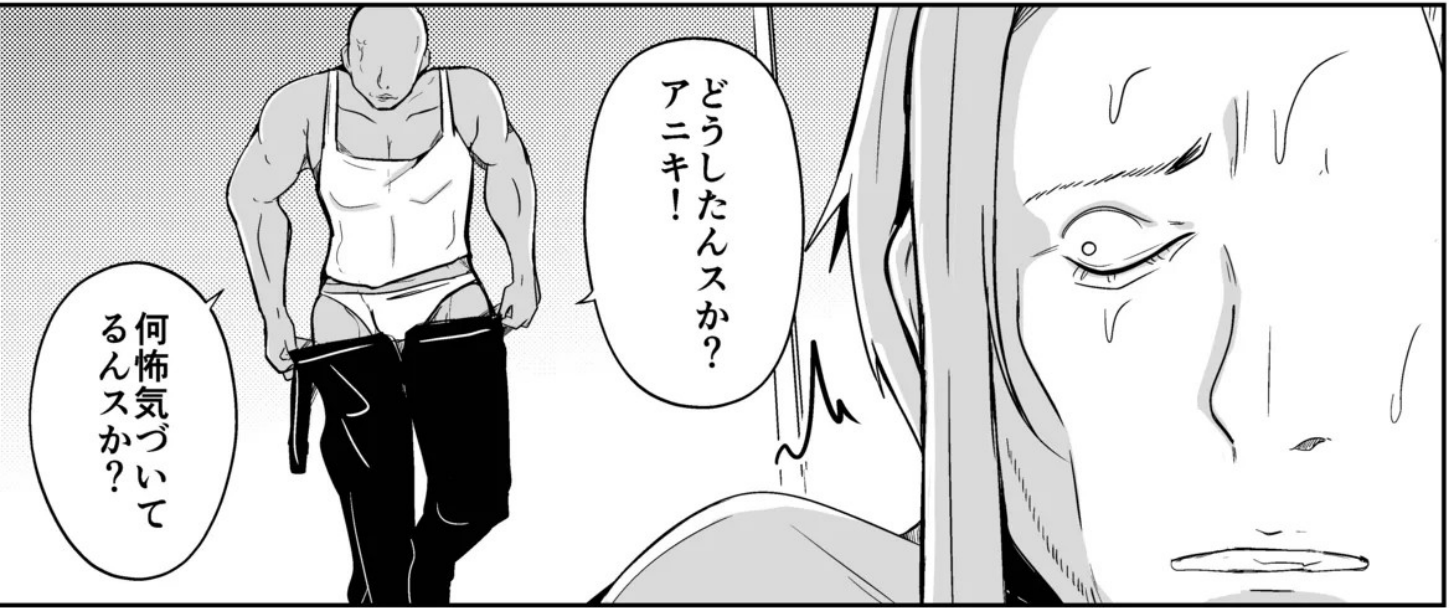


あんなに



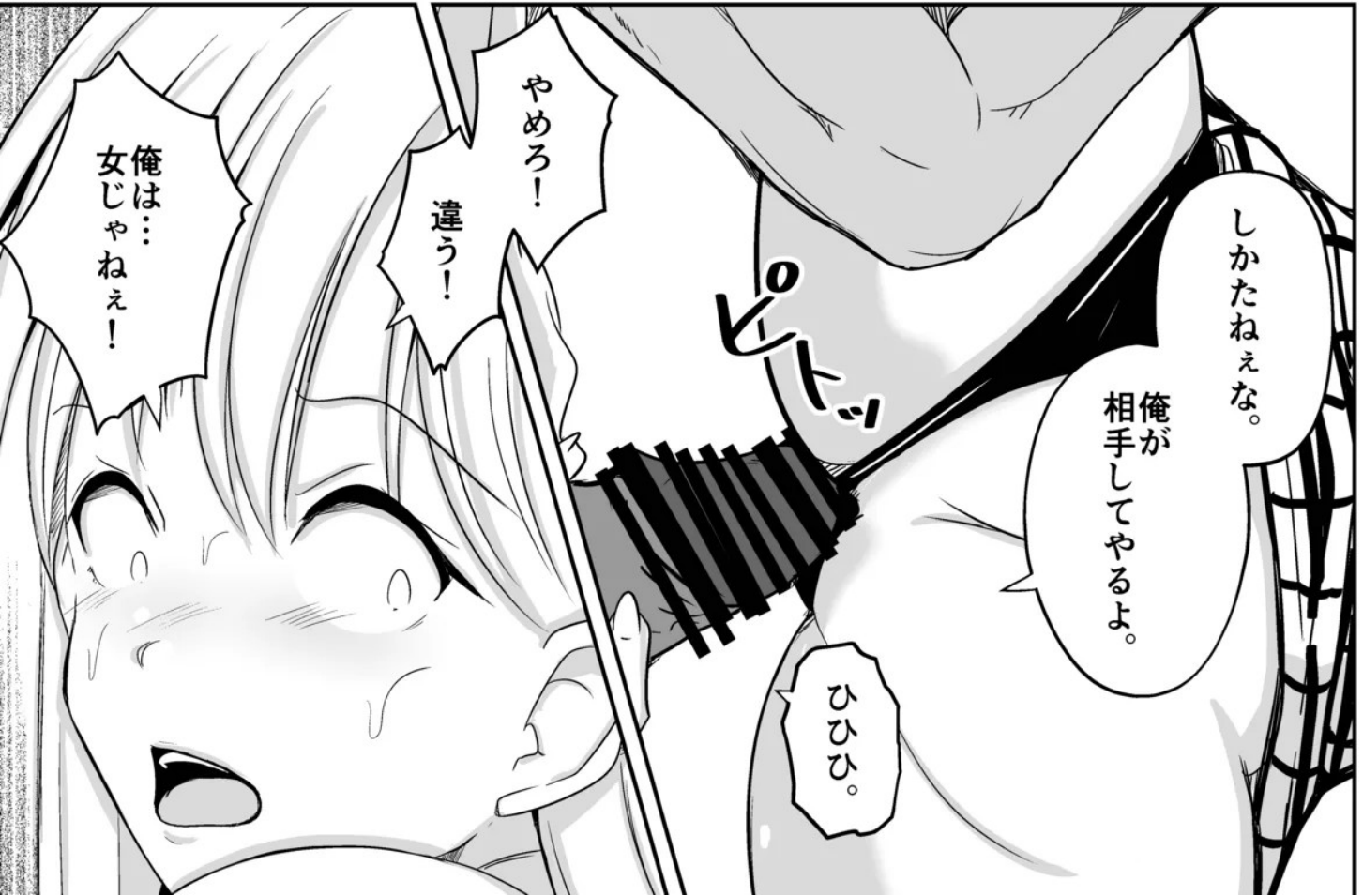
いやあああ!

俺がコイツになつてるのか?



何怖気づいてるんすか?

どうしたんすか? アニキ!



俺は... 女じゃねえ!

やめろ! 違う!

しかたねえな。俺が相手してやるよ。

ひひひ。

カッ

意味わかんねえこと
いってんじゃねーよ!

ひっ!

ぎゅああああっ!

嘘じゃねえ！

俺は…
女じゃねえ！

恐らく
俺とコイツが
入れ替わったんだ！

へえ。
そうなのか。

じゃあ、
何か？

お前が
アニキだって
言うのか？

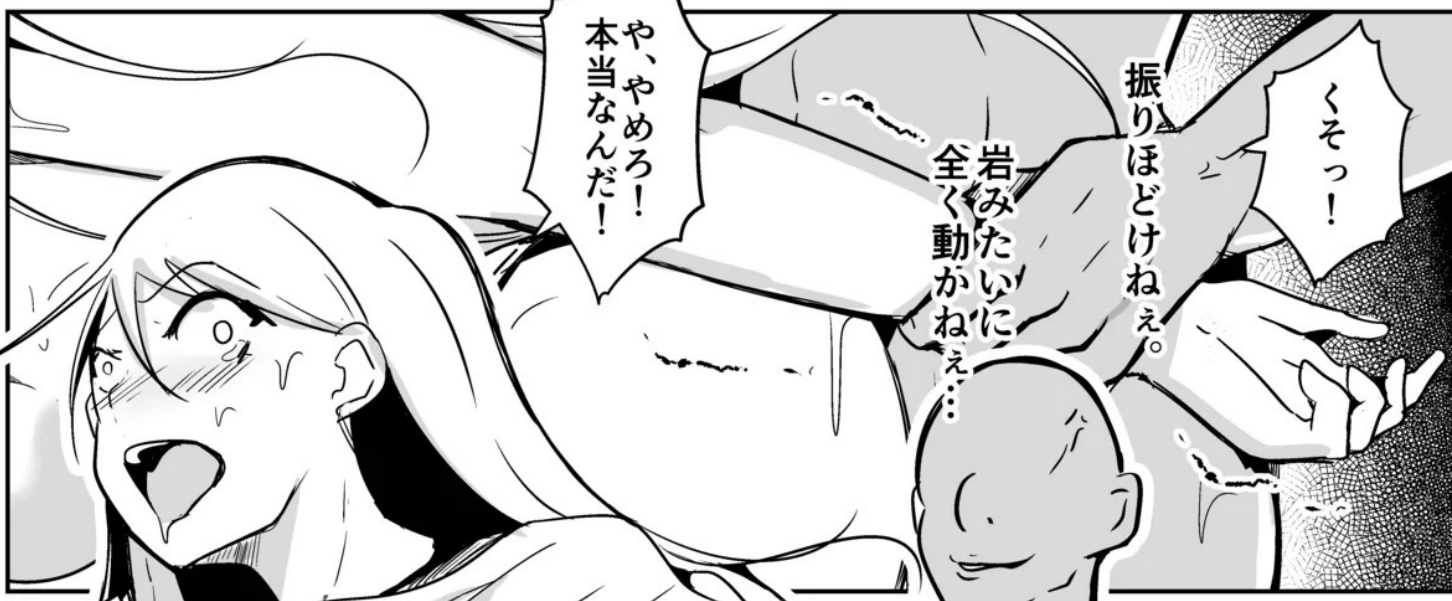
そうだ！



もう少しマシな
嘘つこうぜ!

そんな事
あるわけねーだろ!

あぁっ!

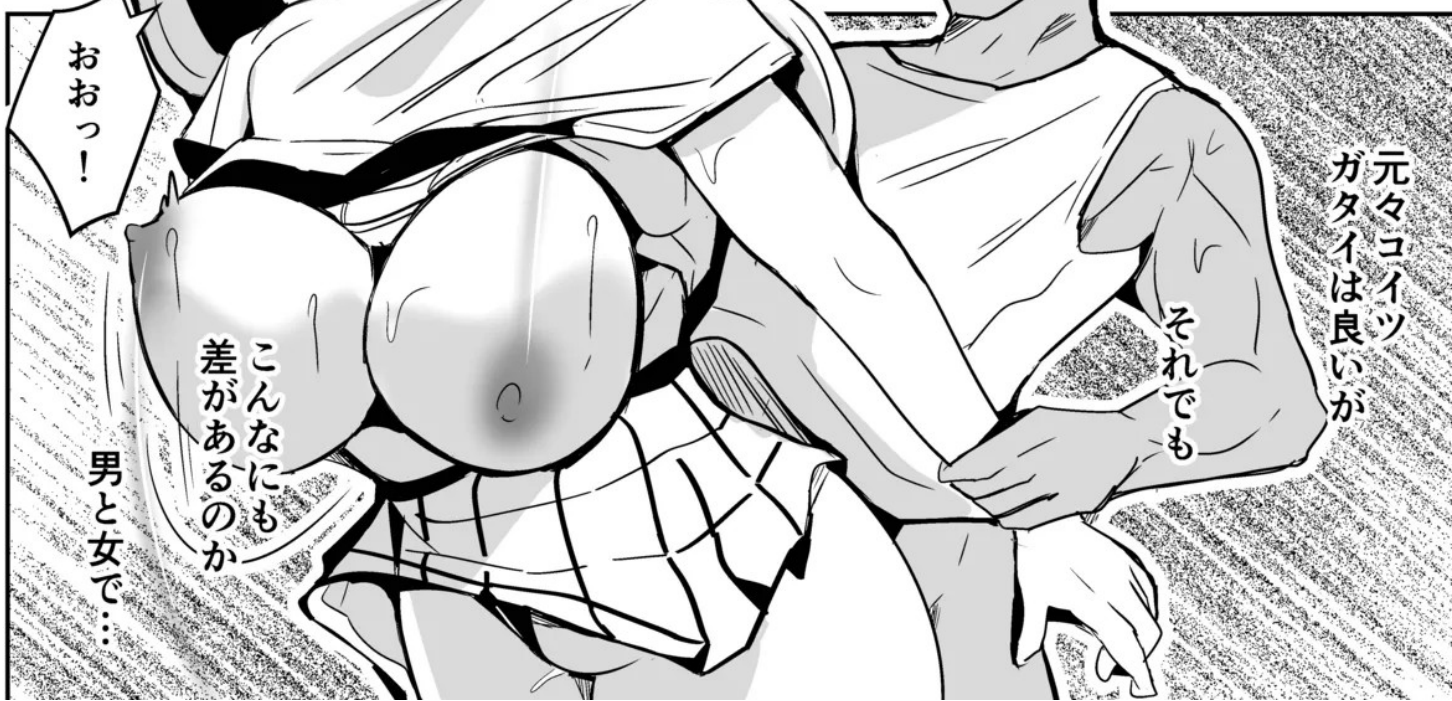


くそっ!

振りほどけねえ。

岩みたいに
全く動かねえ…

や、やめろ!
本当なんだ!



元々コイツ
ガタイは良いが

それでも

こんなにも
差があるのか

おおっ!

男と女で…

何も抵抗できねえ！

おっ！

あっ！

ズン
ズン

成すがままに
犯される…

んんっ！

こんなの
恐怖でじかねえ…

恐怖で感情が
支配されて

はうっ！

あうっ！

涙が勝手に…

やめて！

その人が
言ってる事は
本当なの！

原因は
わからないけど
私たち身体が
入れ替わってるの！



マジですか
アニキ？

証拠は
あるんっすか？



それは、
アニキしか
知らないはず…

本当に…
アニキなんっすか…

だから
じゃねーか！
そう言ってる



Xの件…。

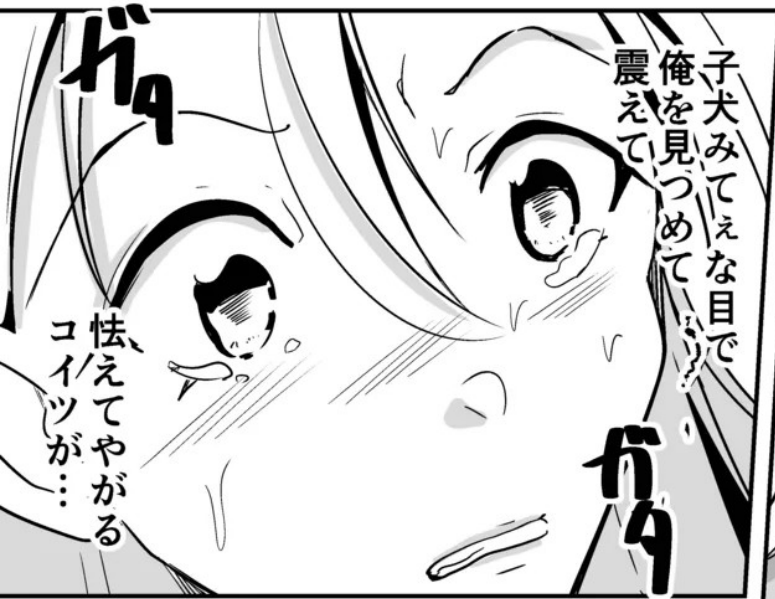
バラされたく
ないだろ？





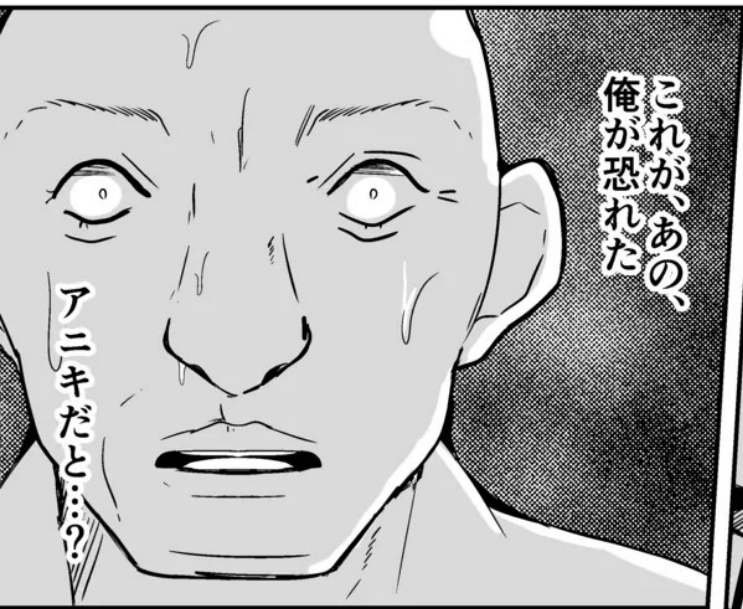
ちよつと力を
いれれば

折れそうな腕。



子犬みてえな目で
俺を見つめて
震えて

怯えてやがる
コイツが...



これが、あの、
俺が恐れた

アニキだと...?



ひひひ



嘘だろ?!

だから
やめてくれっ...!

こんなにも小さく、
細くて弱い女が...

アニキだなんて...



な...
なぜだっ!?

あっ!

んんんんん

こいつあ
好都合だぜえ!

こんなチャンス
ねえもんなあ!

あぐっ!



あの
アニキがよお

俺に怯えてる
なんてよお!

もっと
見せてくれよ!

うっ!

んんんんん

泣き叫ぶ
サマをよお!

どこの男だっというんだ!

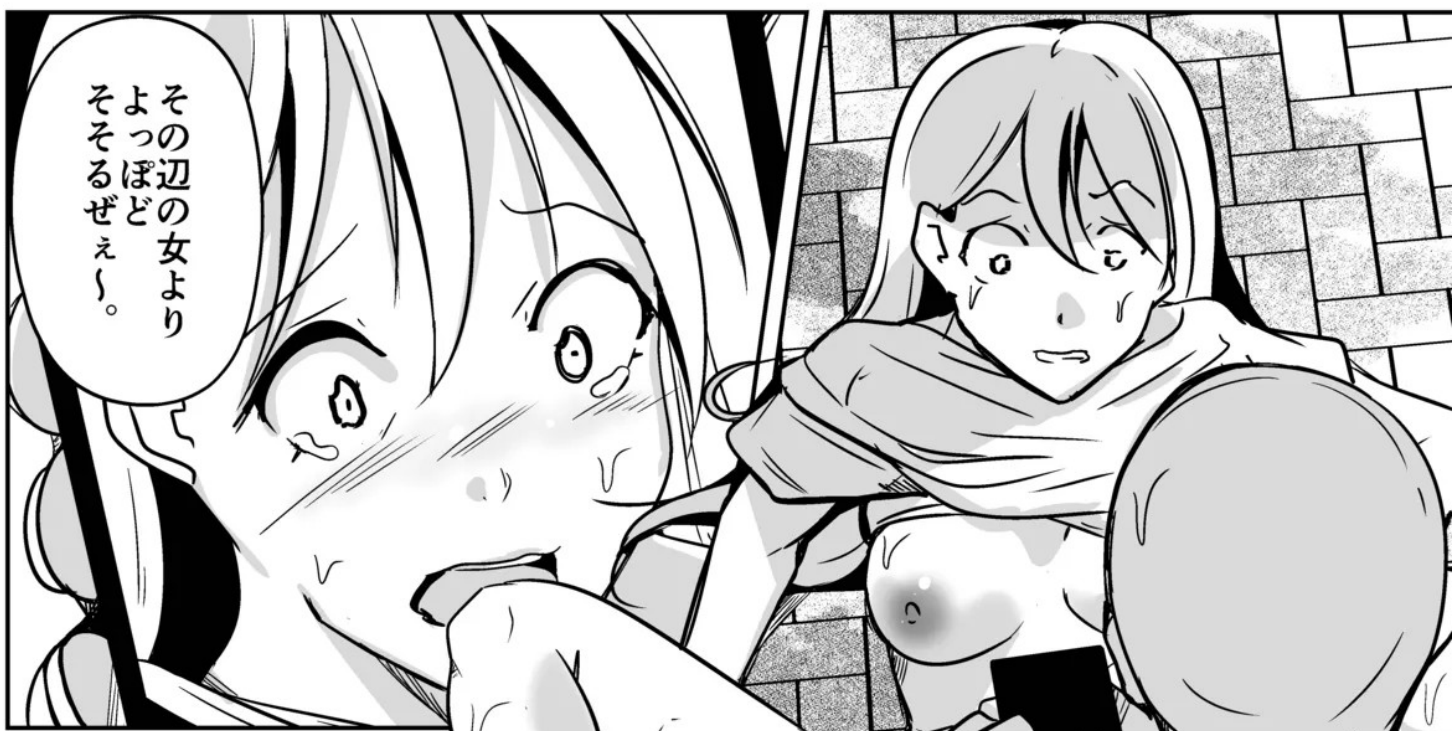
ガワが女なら

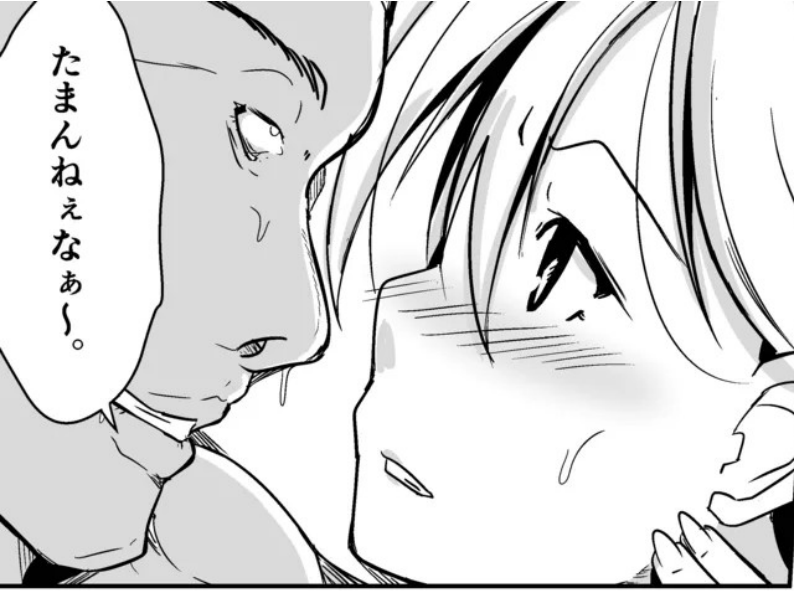
ましてやこんな
カワイイ女
なら尚更

うああああっ!

中身がアニキだなんて
関係ねえよ。

いいねえ。
良い表情だあ。





たまんねえなあゝ。



なんだこの顔は？

怯えてるだけの
こんな情けない
表情を俺が…？

コイツなんかには？



男言葉使って
強がってる

弱い女にしか
見えねえゝん
だよなあゝ。



犯し甲斐がある
表情してるぜえゝ。

うっ！

うあっ！

くっ！

ガッ





ああ？

なんだあテメエ？

お前も俺に
犯されてえのか？

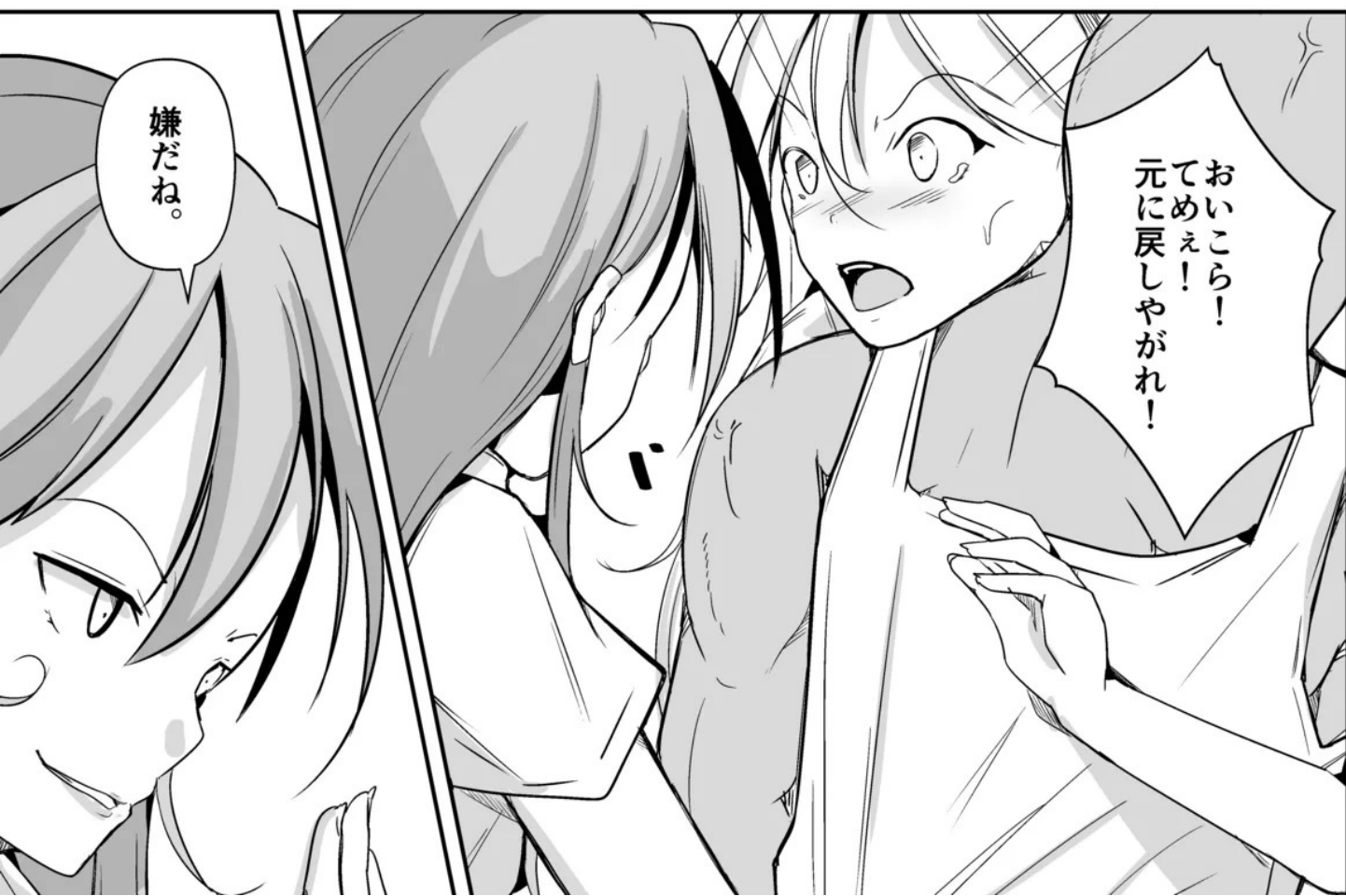
言葉には
気をつけろ。



お…おう…

ビュッ

お前も女に
されたく
なかつたらな。



嫌だね。

おいこら！
てめえ！
元に戻しやがれ！

続けたまえ。

俺はここで
見物させて貰うから

日頃のうっぷんを
晴らすが良いさ。

にひひ

ひぎああああっ！

なんだか
よくわからねえが

そうさせて
貰うぜえー！



や、やめろ
気持ちわりい…

くひひ。

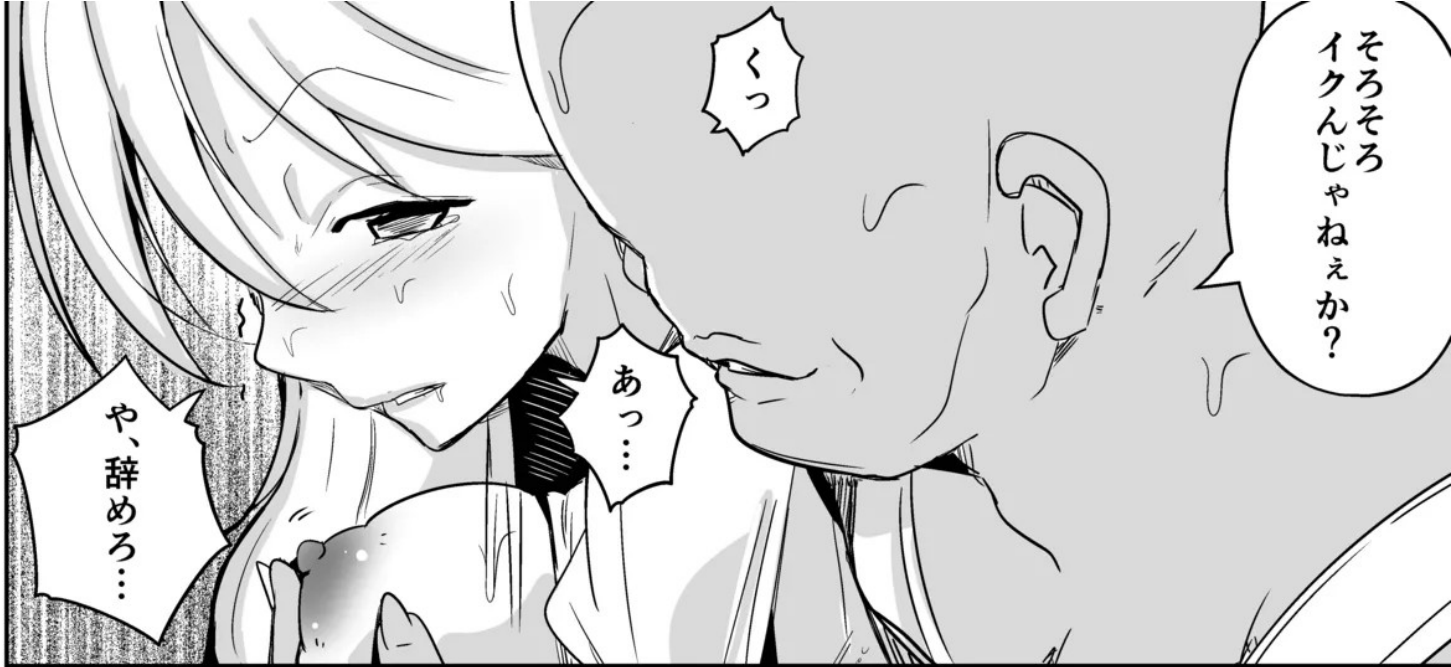
アニキい。
気持ち良いぜえ。

本当に
気持ち悪いのか？

奥、締まって
きたぜえ！

ちゅーっ

きゅらきゅら
言ってるあ。



そろそろ
イクんじやねえか？

くっ

あっ…

や、辞めろ…



なあ。教えてくれよ。
アニキ。

男のくせによお

頼む！

これ以上は！



男の
チンポでよお

クソっ！

おれ、本当に
チンポで…

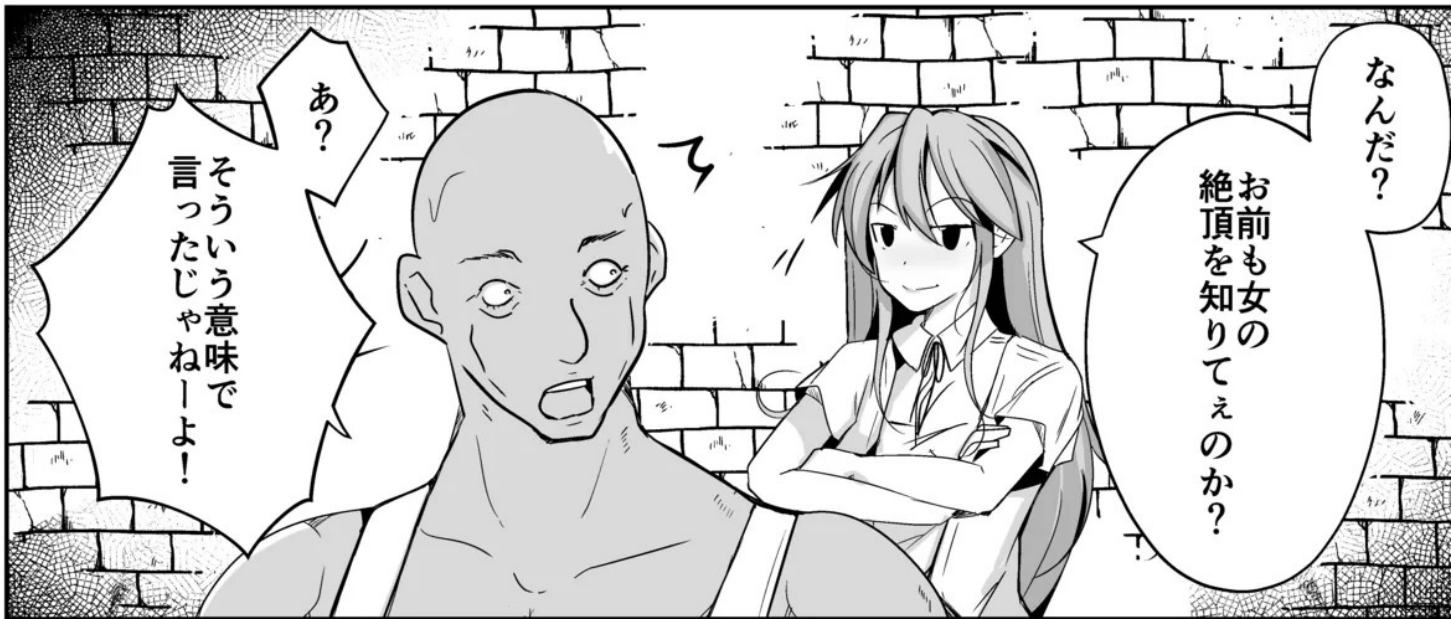
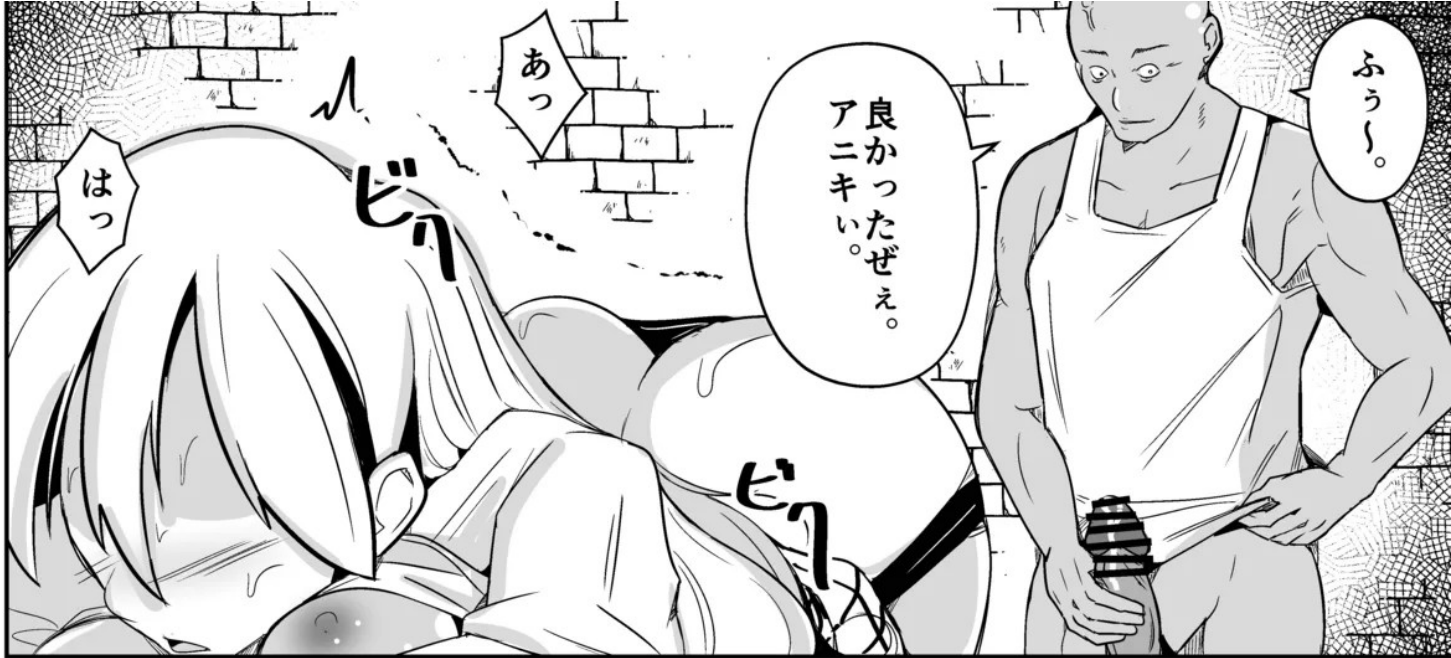


チシコでイカされて
ちまうなんてっ!

うあああっ!!

キッ
ポ
ッ

マンコでイクって
感覚をよお〜!





俺がそこに
いるだと？

おおっ。
懐かしい感覚だあ。



やっぱキモいな。
男ってのは。

こんなもん
おっ勃ててよ。



でも、まあ。



嘘だろ？

これ以上人を
巻き込むと
怒られるからなあ。

特別だぜ？

メインボディを
貸してやる。

自分のマンコの
感触を知っておくのは
悪くねえわな。

助けてくれえ〜！
アニキ〜！

うわ：
うっわあああああ！

なんだ？
情けねえ奴だな。

スリ

クク。
俺の身体で
そんな顔するなよ。

興奮する
じゃないか。

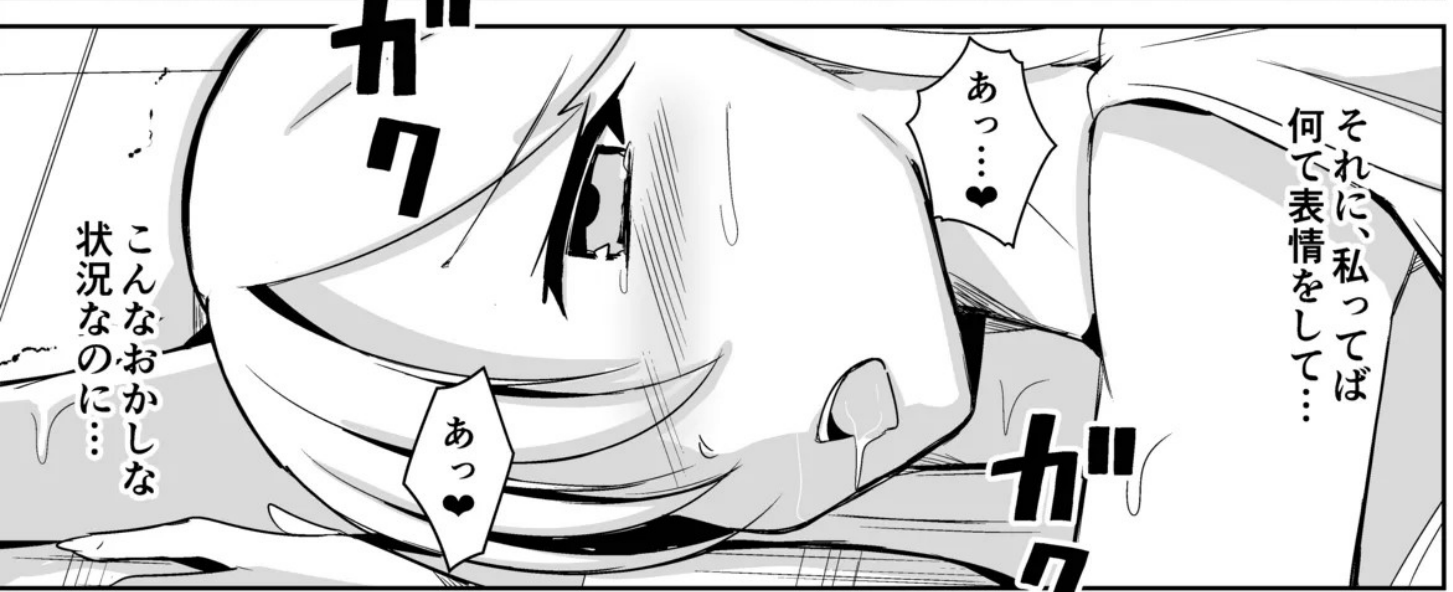


や、やめてくれえ…

うっ…

ああっ!

何なの?この状況。

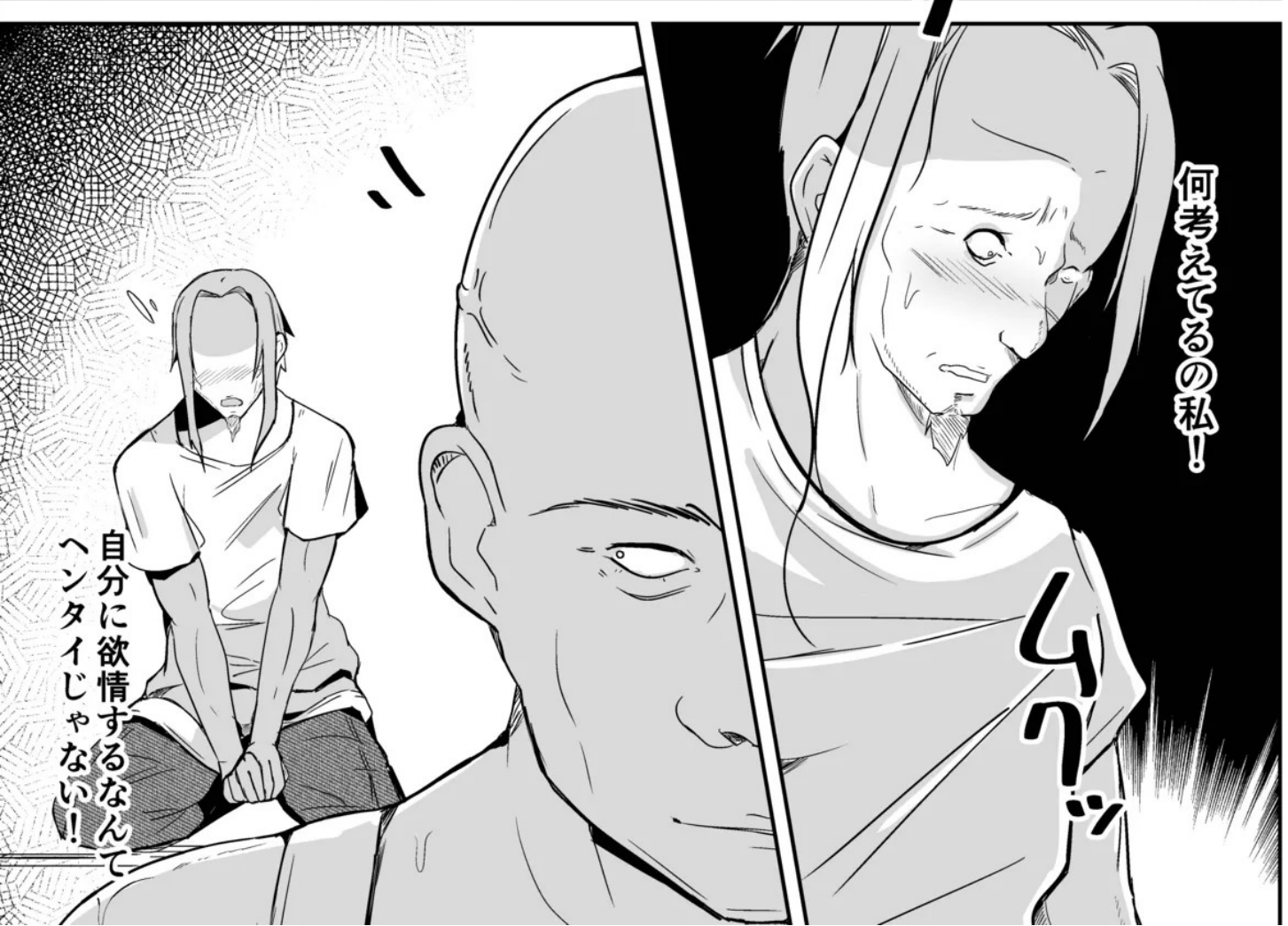


それに、私ってば
何で表情をして…

あっ…♡

あっ♡

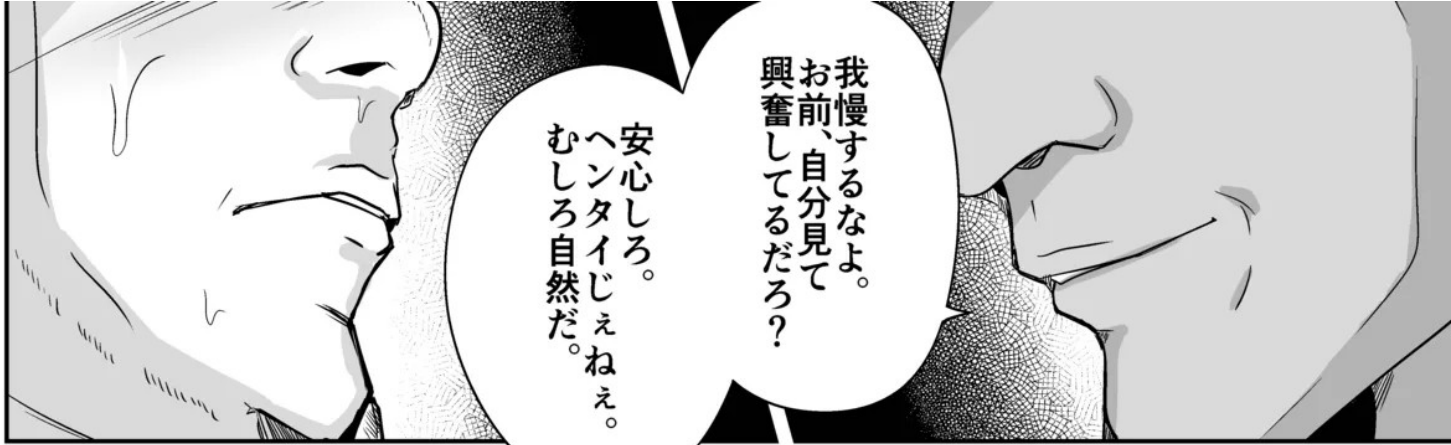
こんなおかしな
状況なのに…



何考してるの私!

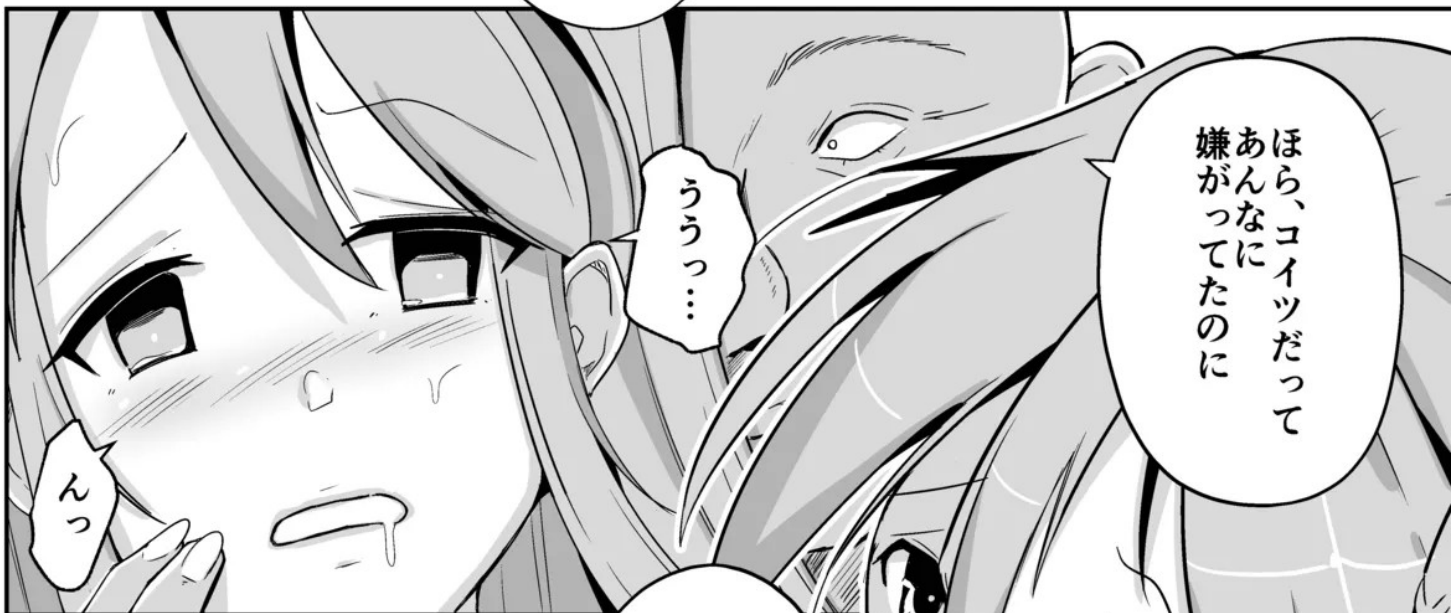
ムクッ
ムクッ

自分に欲情するなんて
ヘンタイじゃない!



我慢するなよ。
お前、自分見て
興奮してるだろ？

安心しろ。
ヘンタイじゃねえ。
むしろ自然だ。



ほら、コイツだって
あんなに
嫌がってたのに

ううっ…

んっ



女性の快感に
目覚めつつある。

本能には
抗えないのさ。

あっ…

ふう…



それに今しか
味わえねえーんだぞ。

ひゃん♡

今しか…

味わえない…

あう…

あっ…

んっ♡

楽しもうや。





や…やめ…て
くれ…

ふふ…
ふふ…

本当に
そう思ってる？



本当はコレが
欲しいんでしょ？



ククク。
イイねえ！

男の顔に
なったじゃねえか。



もの欲しそうな目で
私を見つめてさ。

そ…っ
そんなこと…っ！

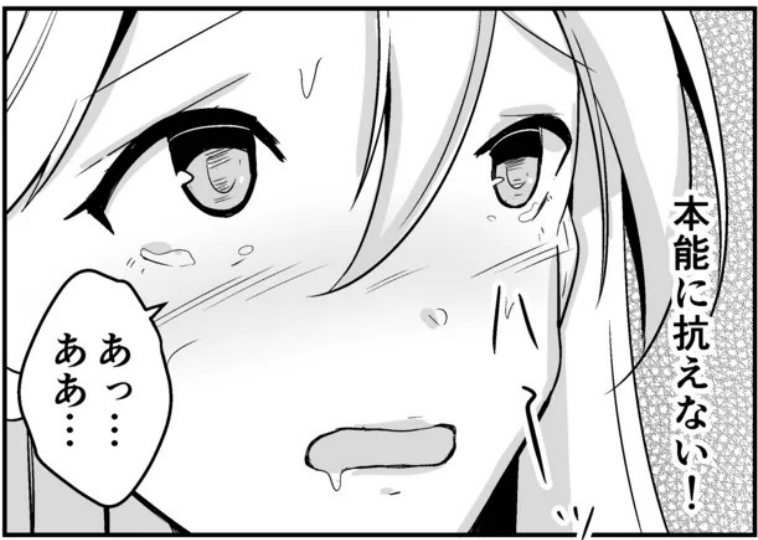


抵抗しないとこ見ると

何をしようとしてるの私!

どうしたんだ俺は!

心は否定しているのに



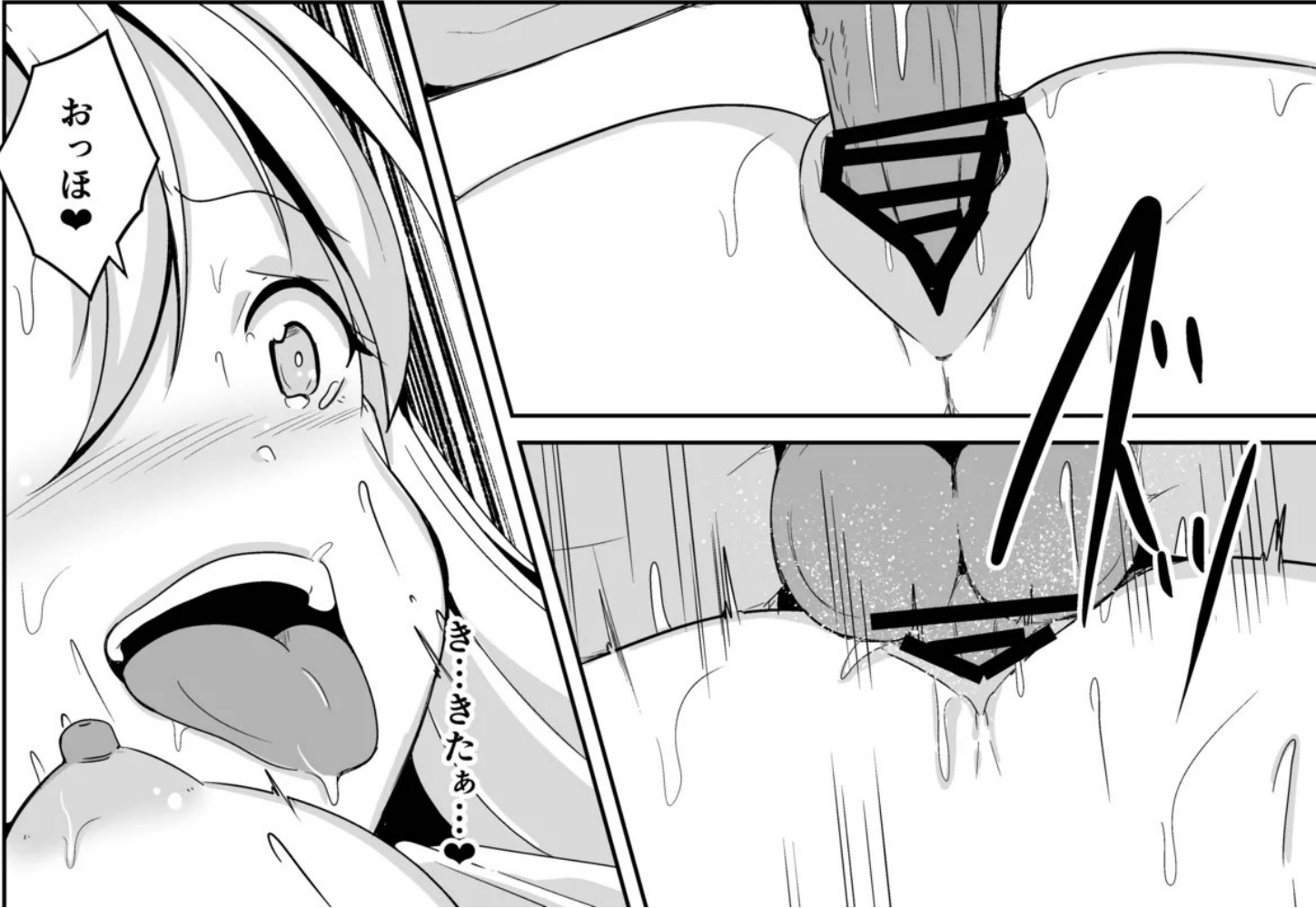
本能に抗えない!

あっ...
あぁ...



良いのよね? 挿入して。

身体が... 男を求めて...



おっほ ♡

き...きたあ... ♡



気持ち
良すぎるよお…♡

あーっ♡

んあーっ♡

っ
っ
っ

っ
っ
っ



チンコ
突っ込まれてる…

この感じ…♡

あーっ♡

っ
っ
っ

最初は恐怖と
気持ち悪さしか
なかったのに…

認めたくはなかったが

犯されたのに
確かに俺は感じていた

そして…

今はさっき以上の
快感が♡

相手が自分だからか？

あっ♡

それとも

んっ♡

あなたが女の子になりつつあるからよ。

身体だけじゃなく心がね。

そんな事…

あーあーあー

ない…っ♡

ええ

あーあーあー

ふふ。

凶星みたいね。

認めるしかない。

：反論できない。
真実だからだ。

あっ♡

そして、ゴイツも
同じく男の本能に

ジ
ッ
ジ
ッ

私はもう、
心まで女に染まっている…

ハ
ッ
ッ

んっ♡

んんっ♡

気持ち
良いよお♡♡

奴は言った。
今しか味わえないと

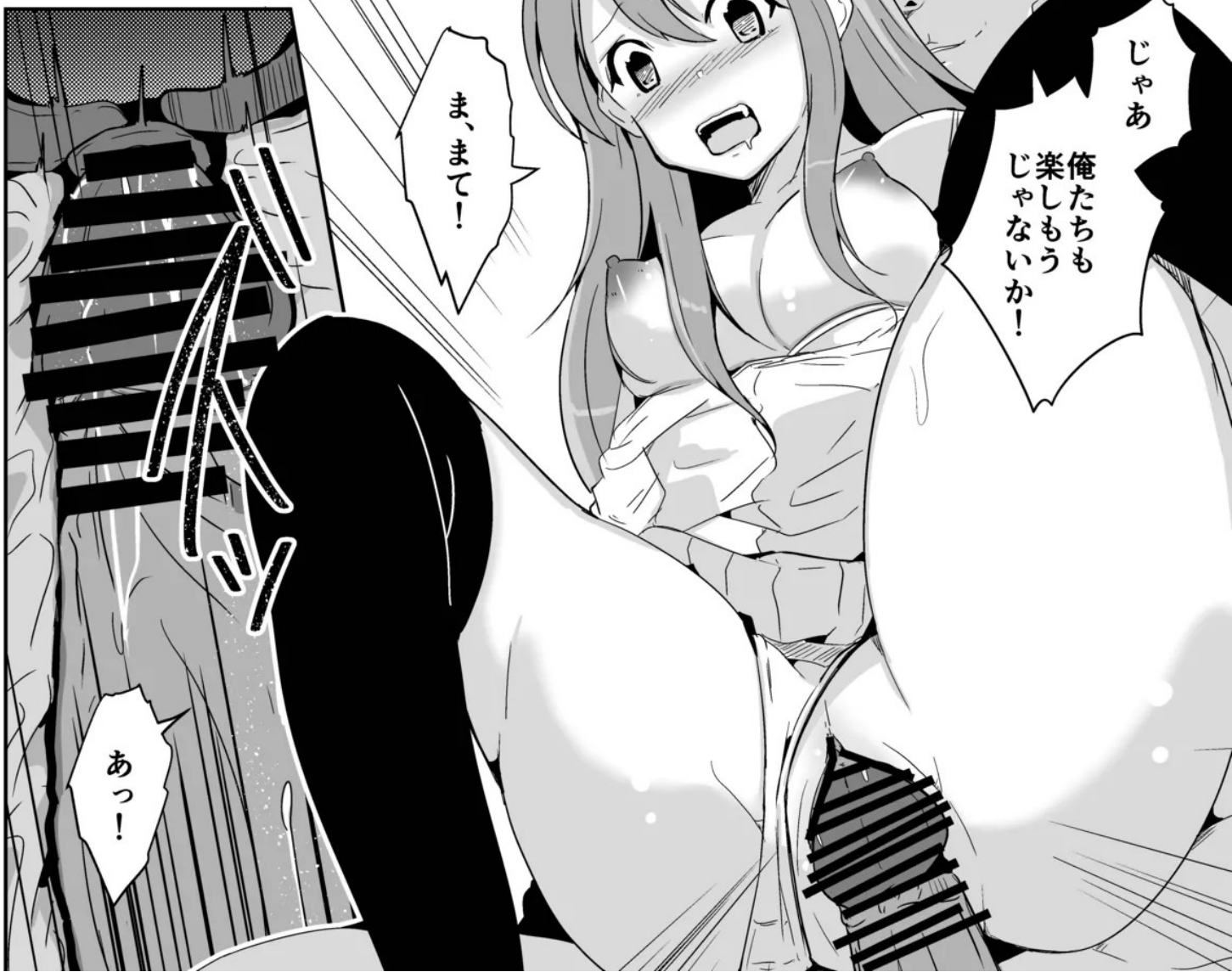


そろそろ
良いか。



あ
ん

ククク。
あちらは
楽しいぶん
じゃねーか。

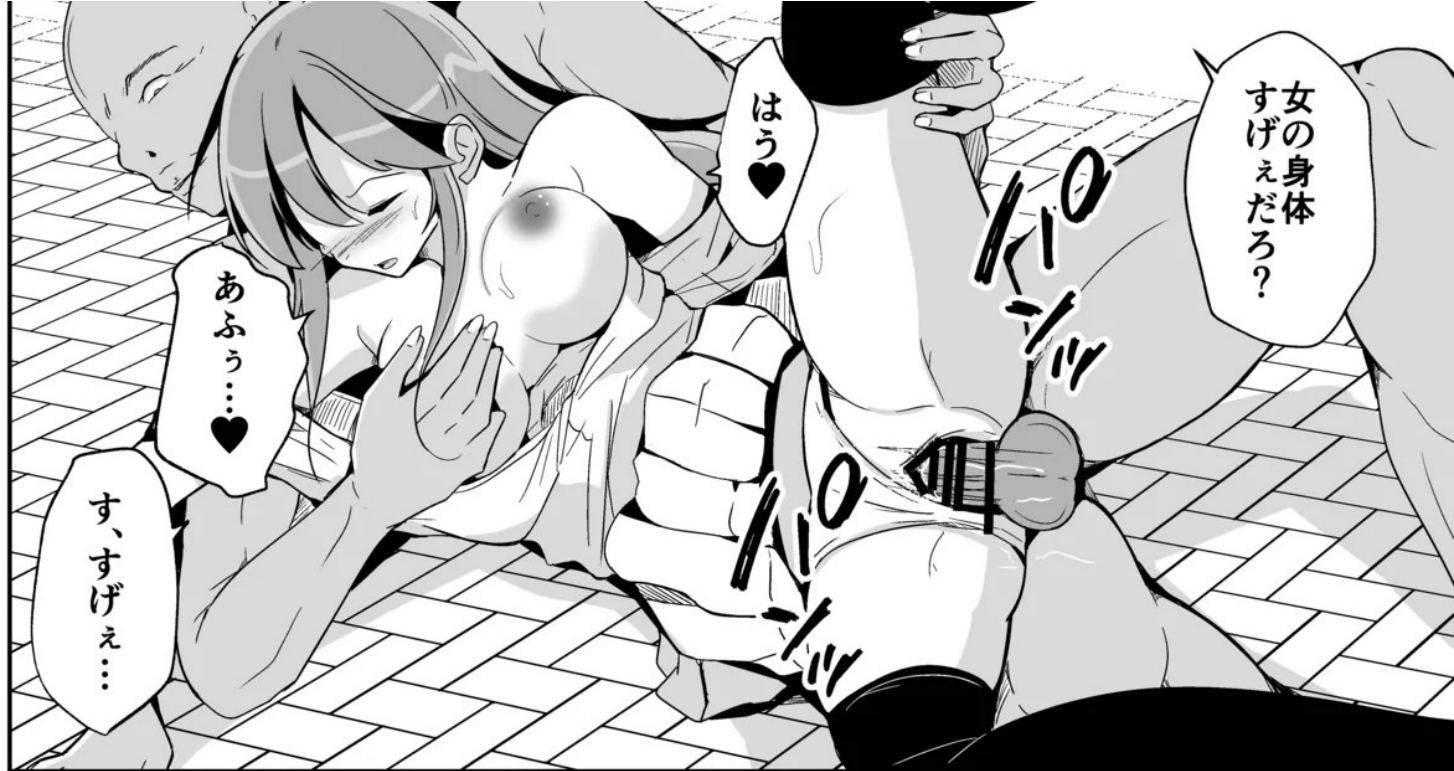


ま、まてー！

じゃあ
俺たちも
楽しもう
じゃないか！

あっ！





女の身体
すげえだろ？

はう♥

あふう…♥

す、すげえ…



頼むっ♥

110

抵抗すれば
するほど…

なんなんだよ
これ♥

もっ♥

もっと
くれよお♥

もっ♥

たつぷり
くれてやうあ〜！

んっ♡

あああっ♡

膣内につ
さ、ザーメン
出てるよあ〜♡

びゅる

ビクッ♡
ビクッ♡





男ってのは。

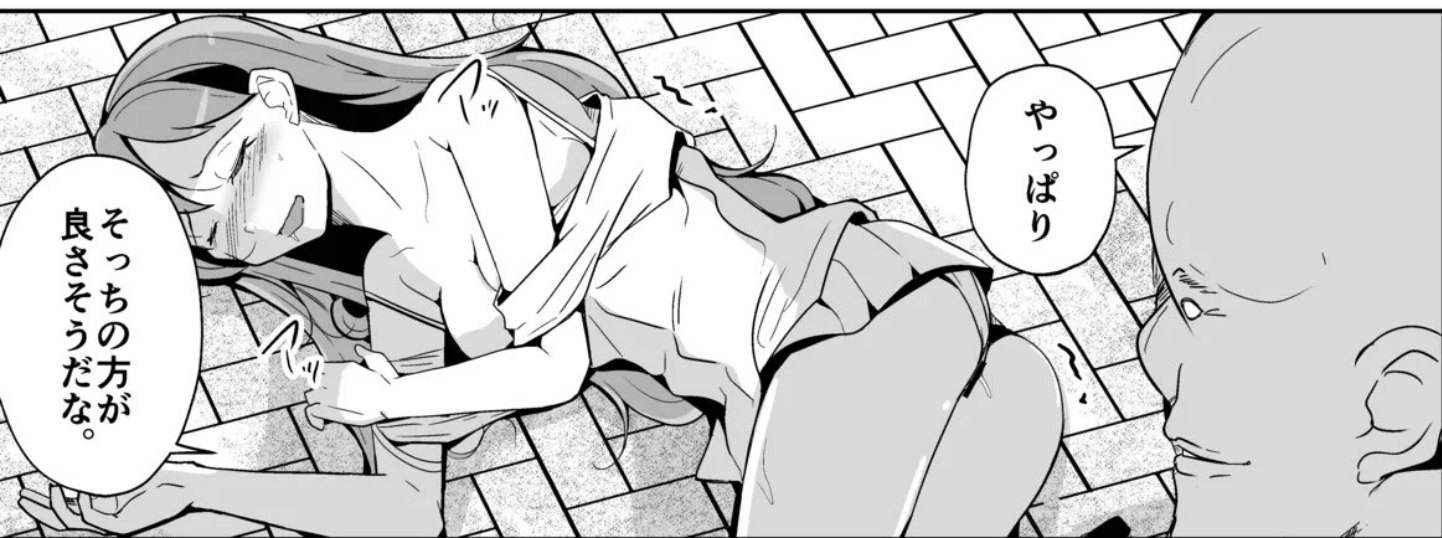
余韻も
なにもねえな。



ふう。

気持ち
は良かったが

ハヤ



そっちの方が
良さそうだな。

やっぱり



あー。
はいはい。



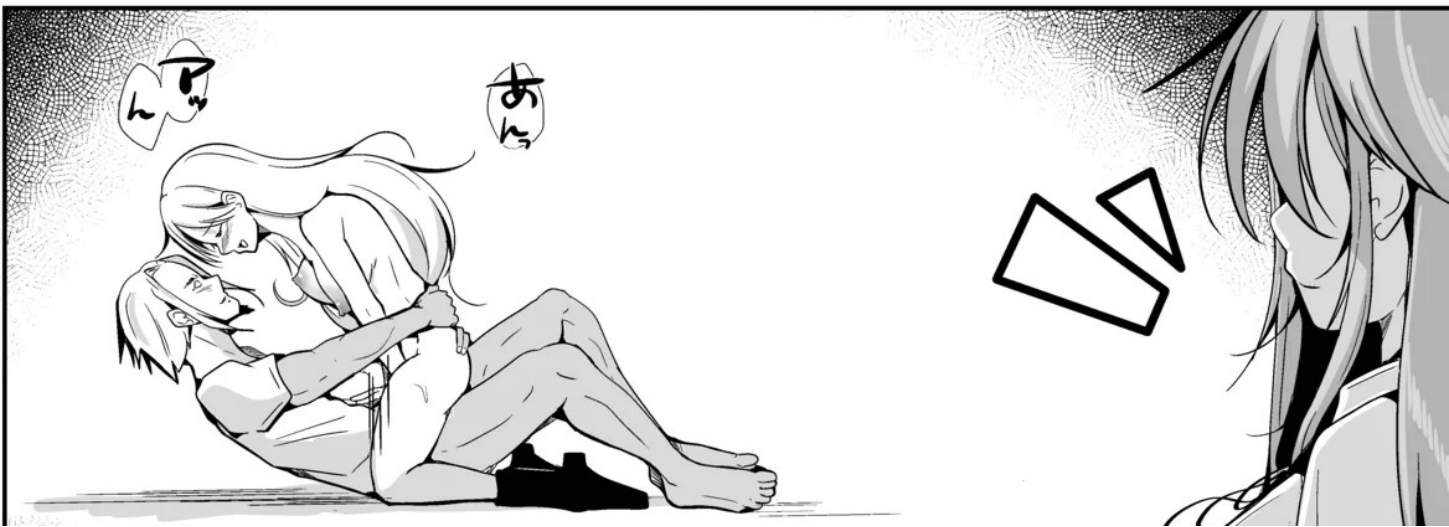
頼むわ。

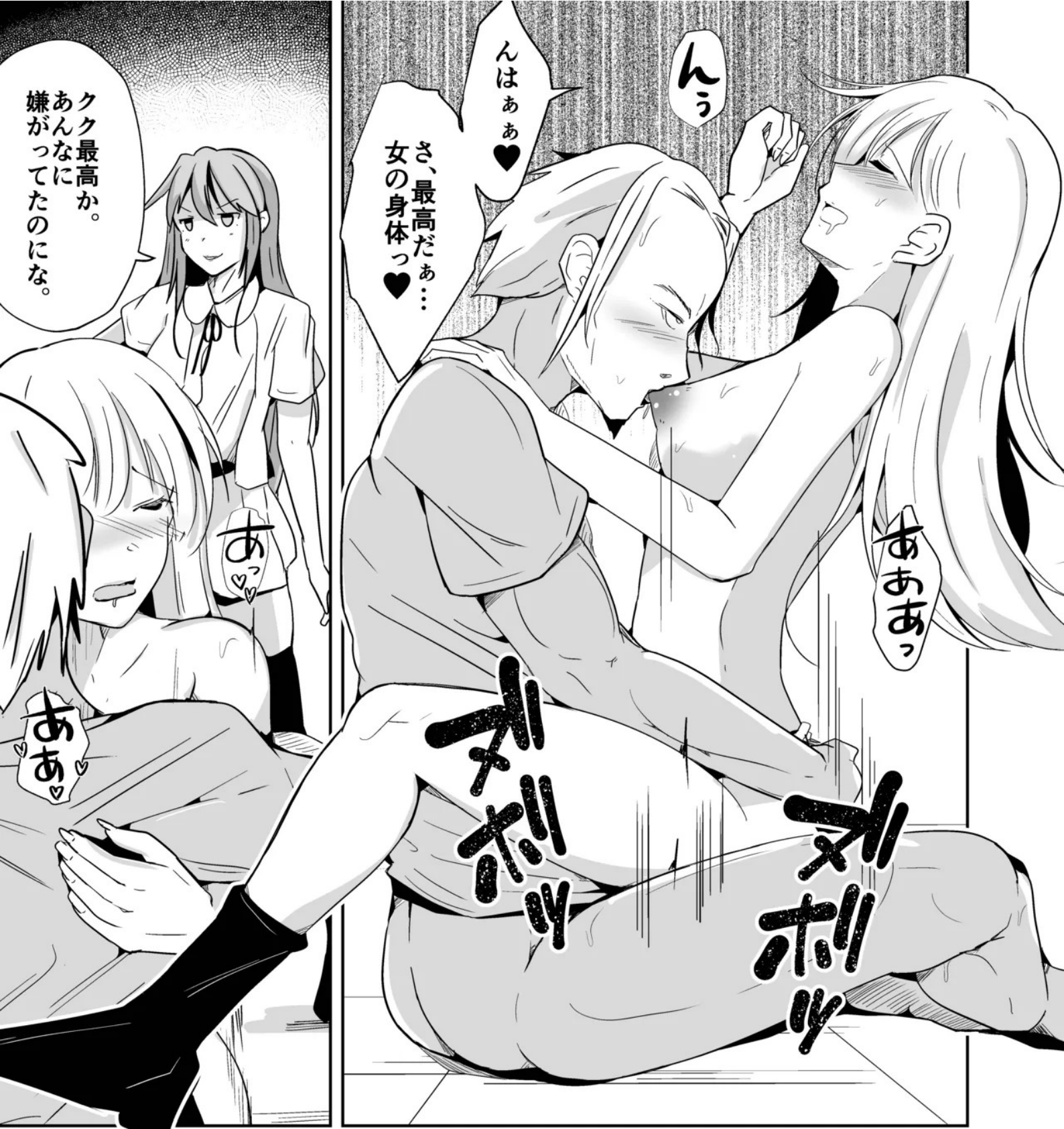


入れ替えを行いますか？

はい

いいえ





クク最高か。
あんなに
嫌がってたのにな。

んはああ♥
さ、最高だあ…
女の身体っ♥

んう

あぁ♡♡

あぁあっ

ズッ
ズッ
ズッ

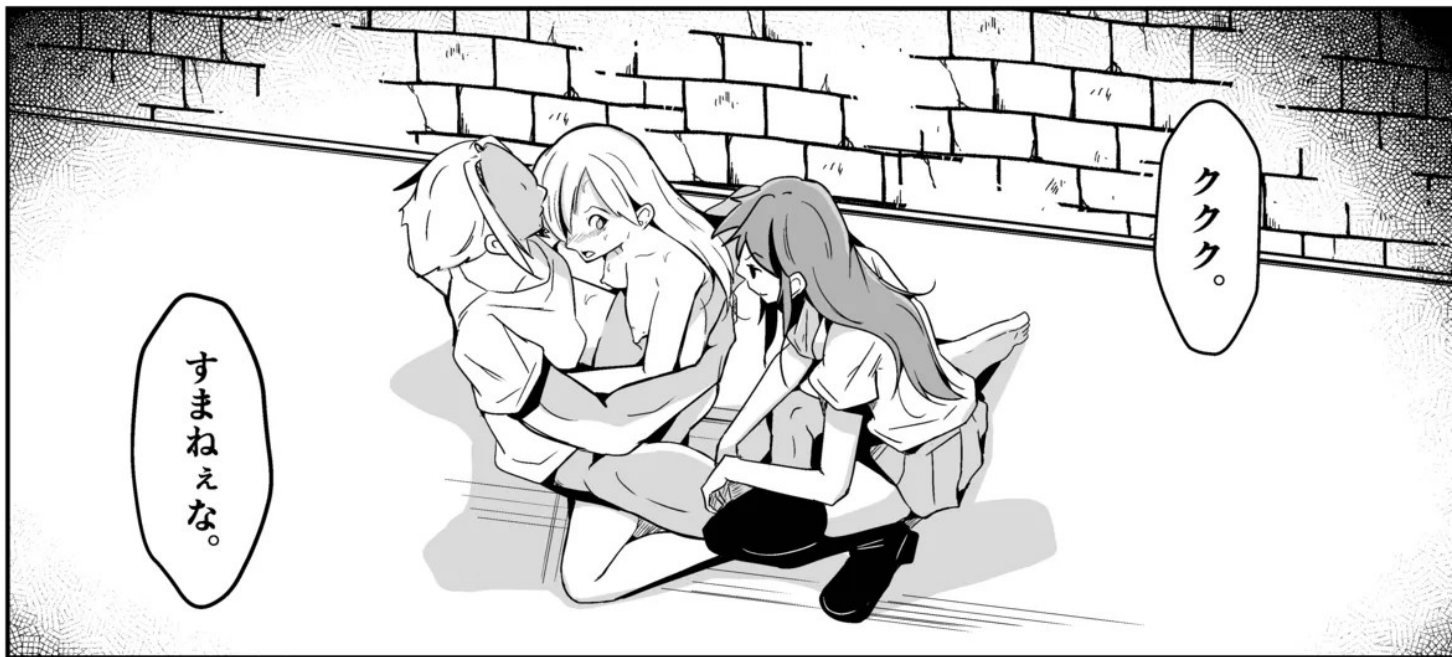
ズッ
ズッ
ズッ



えっ？



さて、そろそろ
望み通り
元に戻してやるよ。





ま、まっしてー!

せめて最後に

いか

せ…

て



もう少し
慎重にやってよね。

足がついたら
どうするのさ。

大丈夫
大丈夫!



ま、
おかげで

良いデータが
取れたけどね。

